

# **2014年度（15年3月期） 第2四半期累計期間 決算概要**

**2014年10月30日**

**日本電気株式会社**

**(<http://jpn.nec.com/ir>)**

## I. 第2四半期累計期間 決算概要

## II. 業績予想

## III. 2015中期経営計画の進捗

- 第2四半期累計期間 決算概要（補足）
- 業績予想（補足）
- 参考資料（業績データ）

# **I . 第2四半期累計期間 決算概要**

## 上期 概況サマリー

## 売上高

前年同期比  $\Delta 4.2\%$ 

- 前年同期比で減収も、現在注力する事業ベース売上高では約3%の増収
  - パブリックが大幅増収
  - 事業の非連結化の影響などでその他が減収

## 営業利益

前年同期比 +211億円

- 前年同期比で大幅に改善
  - 携帯電話端末事業の赤字解消
  - パブリック、システムプラットフォームで採算改善

## 当期純損益

前年同期比 +386億円

- 営業利益の改善、特別損失の減少
  - 事業構造改善費用の減少など  
(前年同期に携帯電話事業関連で約110億円の特別損失)

## 上期 実績サマリー

(単位:億円)

	第2四半期 <7~9月>			上期 <4~9月>		
	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
売上高	7,430	7,261	△ 2.3%	13,831	13,248	△ 4.2%
営業利益	222	286	+ 64	4	215	+ 211
対売上高比率 (%)	3.0%	3.9%		0.0%	1.6%	
経常損益	136	267	+ 131	△ 145	167	+ 312
対売上高比率 (%)	1.8%	3.7%		-1.1%	1.3%	
当期純損益	△ 47	226	+ 272	△ 262	125	+ 386
対売上高比率 (%)	-0.6%	3.1%		-1.9%	0.9%	
フリー・キャッシュ・フロー	△ 1,359	△ 667	+ 692	△ 948	△ 134	+ 815

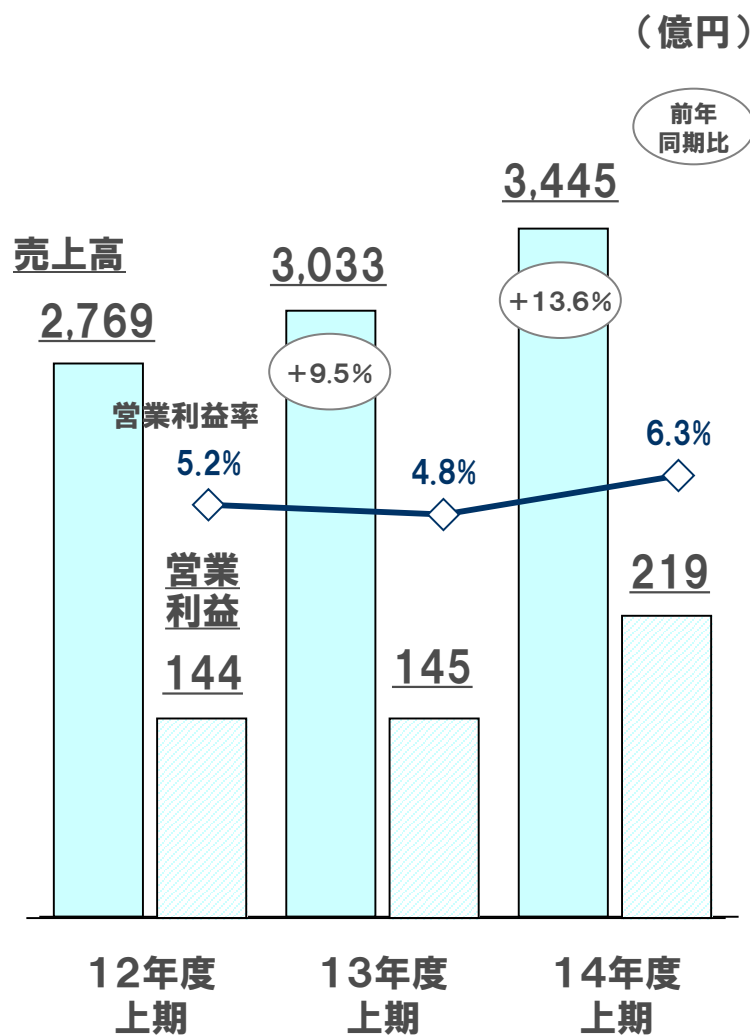
参考：14年度上期の売上平均為替レート（実績）1ドル=102.24円、1ユーロ=139.44円  
（7/30時点での14年度の為替レート前提 1ドル=100円、1ユーロ=130円）

13年度上期の売上平均為替レート（実績）1ドル=98.11円、1ユーロ=128.43円

## セグメント別 上期実績サマリー

(単位:億円)

		第2四半期 <7~9月>			上期 <4~9月>		
		13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
パブリック	売上高	1,767	1,981	+ 12.1%	3,033	3,445	+ 13.6%
	営業利益	142	203	+ 61	145	219	+ 73
	営業利益率(%)	8.0%	10.2%		4.8%	6.3%	
エンタープライズ	売上高	713	723	+ 1.3%	1,301	1,267	△ 2.6%
	営業利益	31	40	+ 9	7	23	+ 15
	営業利益率(%)	4.4%	5.6%		0.6%	1.8%	
テレコムキャリア	売上高	1,800	1,815	+ 0.8%	3,340	3,325	△ 0.5%
	営業利益	138	123	△ 15	194	166	△ 28
	営業利益率(%)	7.7%	6.8%		5.8%	5.0%	
システム プラットフォーム	売上高	1,931	1,785	△ 7.5%	3,507	3,454	△ 1.5%
	営業利益	84	62	△ 22	18	87	+ 69
	営業利益率(%)	4.3%	3.5%		0.5%	2.5%	
その他	売上高	1,218	958	△ 21.3%	2,649	1,758	△ 33.6%
	営業損益	△ 20	22	+ 41	△ 118	△ 27	+ 91
	営業利益率(%)	-1.6%	2.3%		-4.5%	-1.5%	
消去・配賦不能		△ 153	△ 163	△ 10	△ 243	△ 252	△ 9
合計	売上高	7,430	7,261	△ 2.3%	13,831	13,248	△ 4.2%
	営業利益	222	286	+ 64	4	215	+ 211
	営業利益率(%)	3.0%	3.9%		0.0%	1.6%	



**売上高 3,445億円 (+13.6%)**

△ 官公向け、公共向けを中心に  
堅調に推移し増収

**営業利益 219億円 (+73億円)**

△ 売上増などにより増益

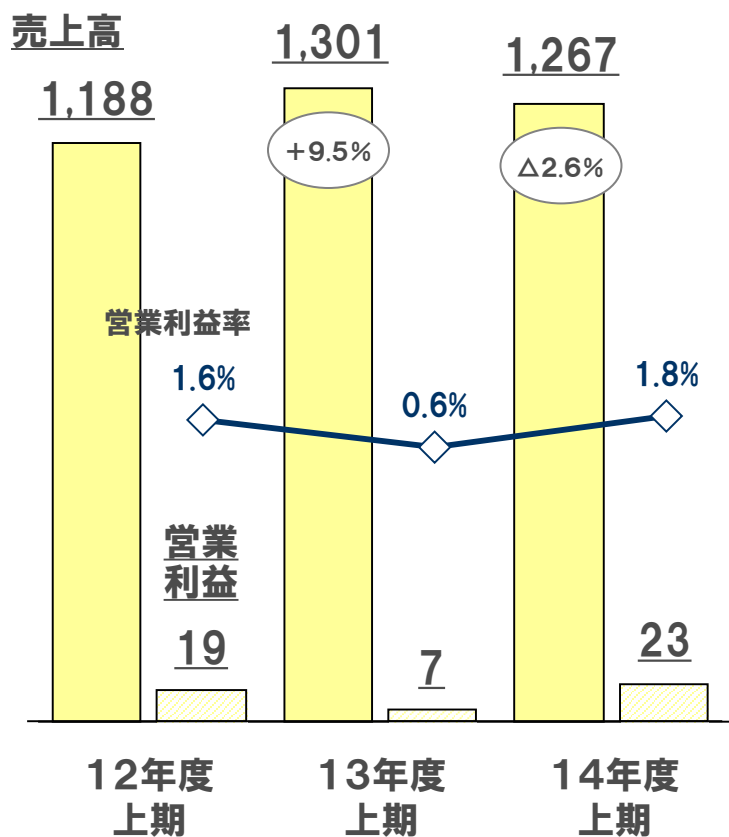


※ カッコ内の%は前年同期比

# エンタープライズ

(億円)

前年  
同期比

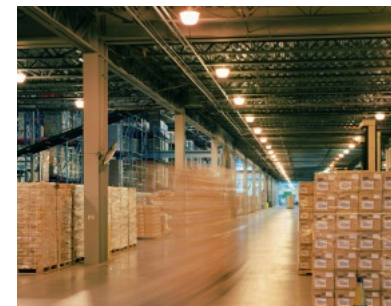


**売上高 1,267億円 (Δ2.6%)**

▽ 流通・サービス業向けが減少

**営業利益 23億円 (+15億円)**

△ 売上減も費用効率化などにより改善



※ カッコ内の%は前年同期比

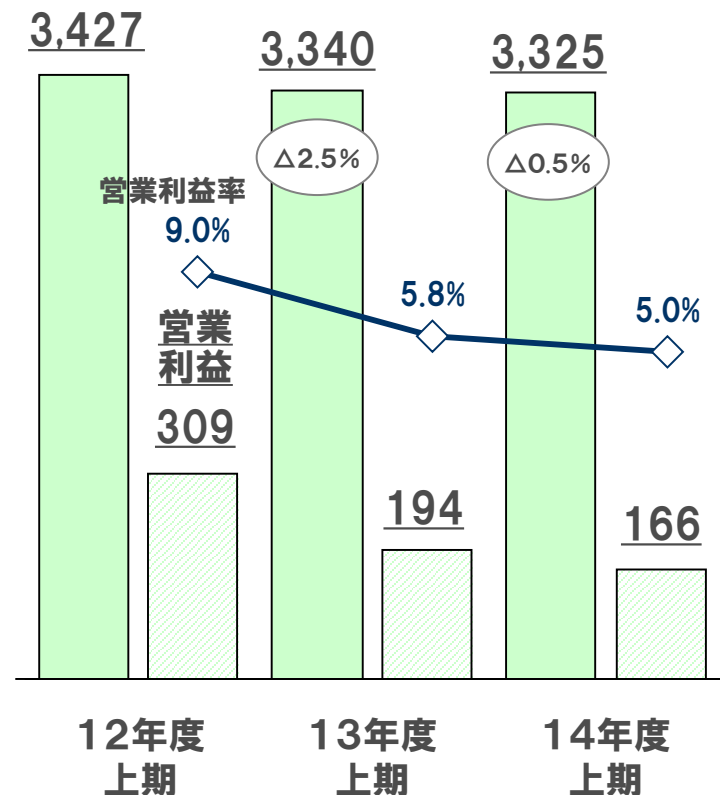


# テレコムキャリア

(億円)

前年  
同期比

売上高



## 売上高 3,325億円 (Δ0.5%)

▽ モバイルバックホールやTOMSを中心に海外事業が拡大も国内が減少

## 営業利益 166億円 (Δ28億円)

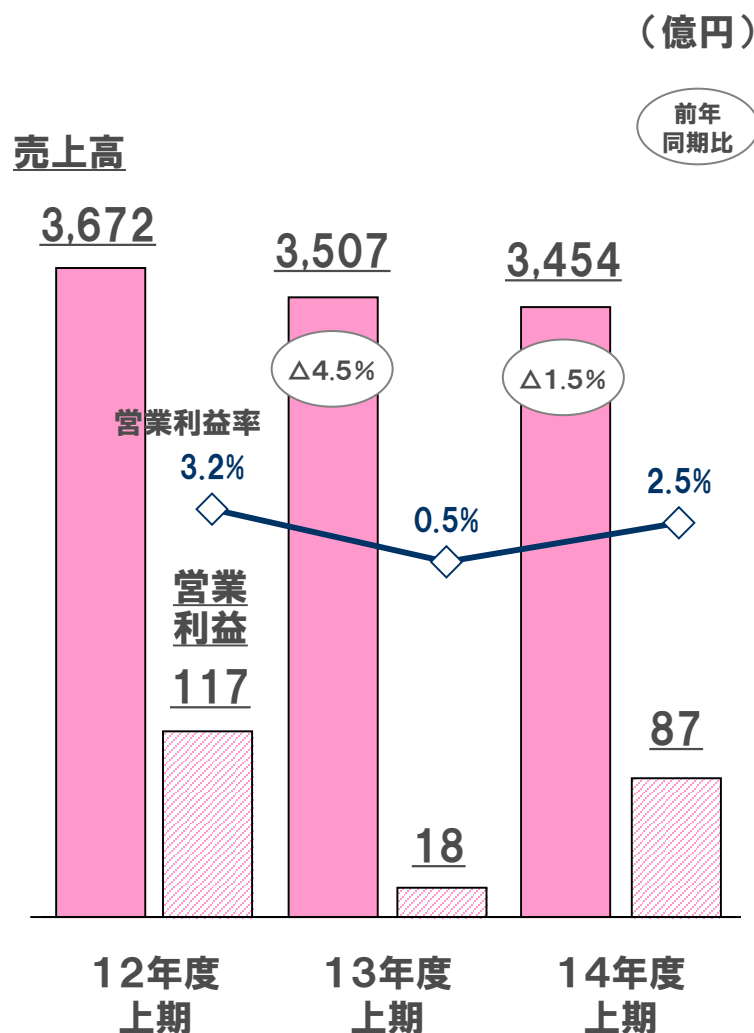
▽ SDN関連の投資費用増加などにより減益

TOMS: Telecom Operations and Management Solutions  
SDN : Software-Defined Networking



※ カッコ内の%は前年同期比

# システムプラットフォーム



**売上高** 3,454億円 (Δ1.5%)

▽ 企業ネットワークの減少などにより減収

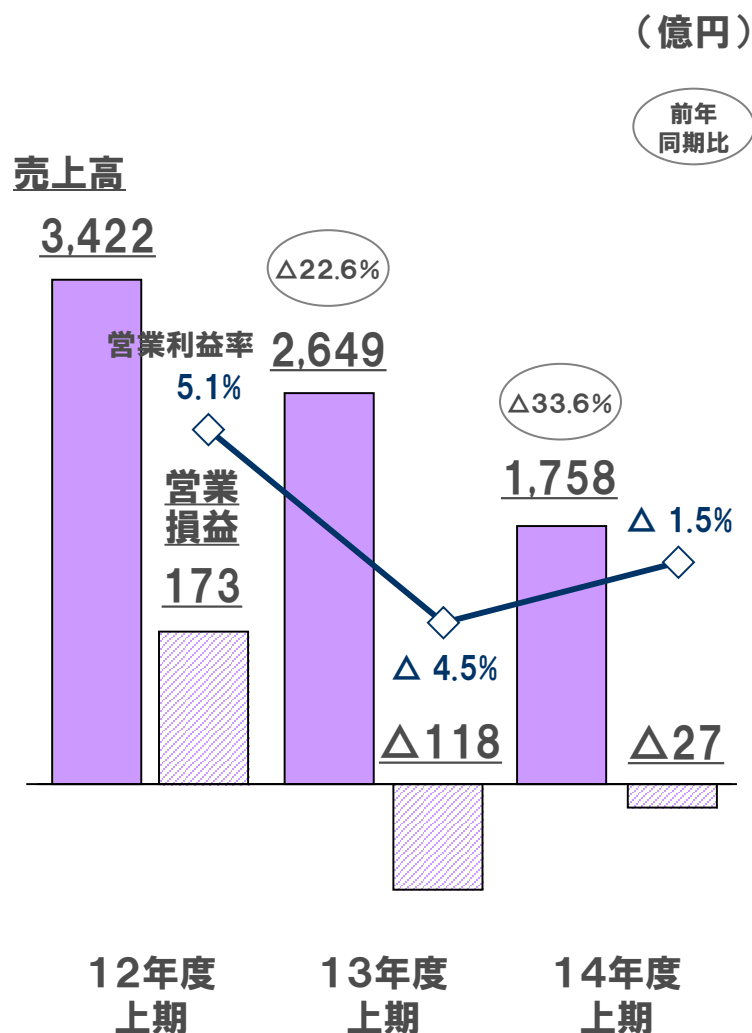
**営業利益** 87億円 (+69億円)

△ 売上減も採算性の向上や費用効率化などにより増益



※ カッコ内の%は前年同期比

## その他



**売上高 1,758億円 (△33.6%)**

▽ NECビッグロブ、NECモバイルリングの非連結化、携帯電話の出荷台数減により減収

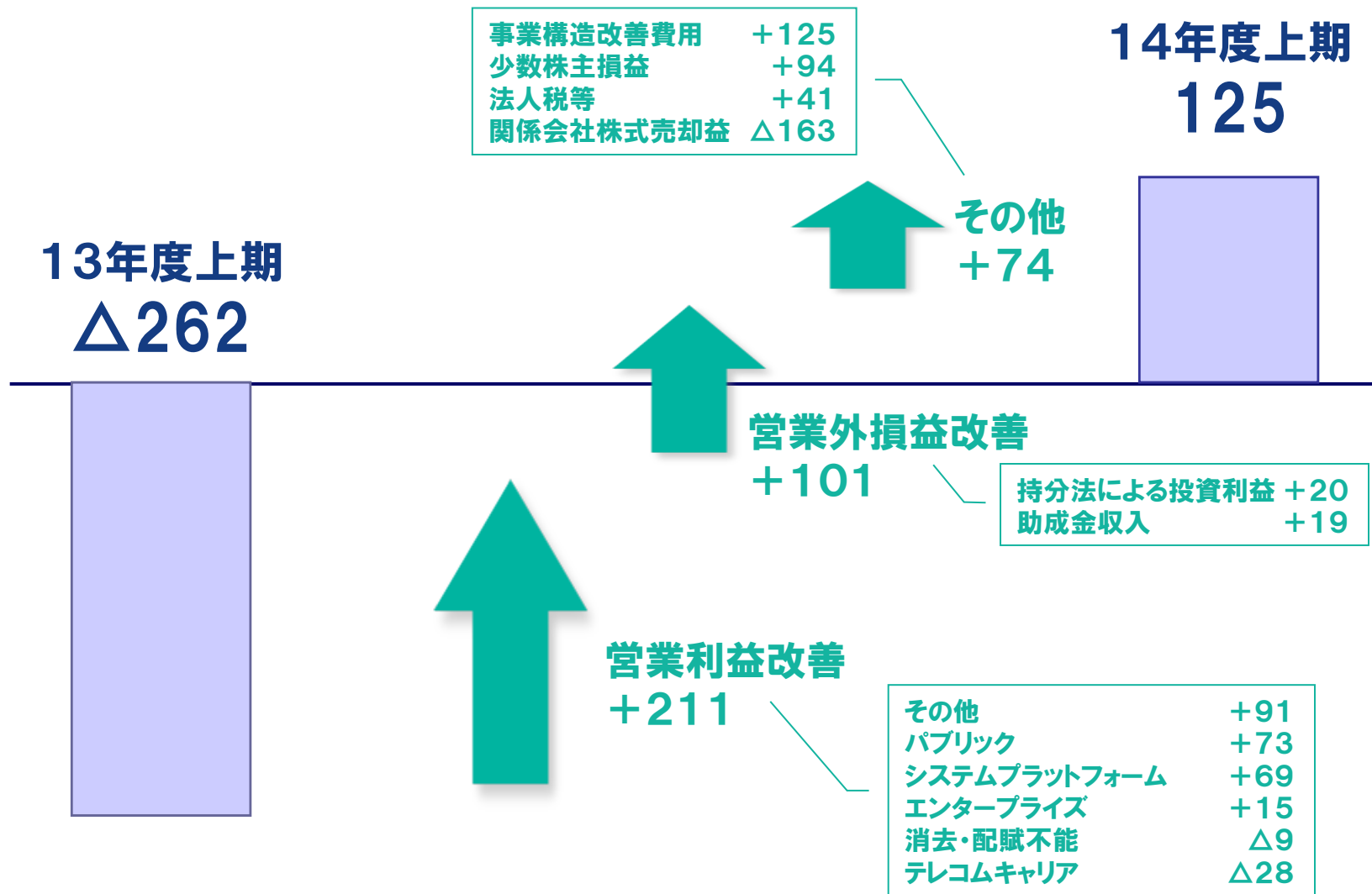
**営業損益 △27億円 (+91億円)**

△ 事業の非連結化の影響はあるも携帯電話端末事業の損益改善が寄与

※ カッコ内の%は前年同期比

# 当期純損益増減（前年同期比）

（億円）



## II. 業績予想

# 業績予想サマリー

## 営業利益1,200億円の確実な達成を目指す (現在注力する事業ベース売上高では約4%の増収)

(単位:億円)

	通期		前年度比
	13年度 実績	14年度 予想	
売上高	30,431	30,000	△ 1.4%
営業利益	1,062	1,200	+ 138
対売上高比率(%)	3.5%	4.0%	
経常利益	692	900	+ 208
対売上高比率(%)	2.3%	3.0%	
当期純利益	337	350	+ 13
対売上高比率(%)	1.1%	1.2%	

		通期			
		13年度 実績	14年度 予想	前年度比	
パブリック	売上高	7,384	8,000	+ 8.3%	
	営業利益	586	730	+ 144	
	営業利益率(%)	7.9%	9.1%		
エンタープライズ	売上高	2,723	2,750	+ 1.0%	
	営業利益	65	90	+ 25	
	営業利益率(%)	2.4%	3.3%		
テレコムキャリア	売上高	7,258	7,700	+ 6.1%	
	営業利益	603	660	+ 57	
	営業利益率(%)	8.3%	8.6%		
システム プラットフォーム	売上高	7,808	7,750	△ 0.7%	
	営業利益	307	350	+ 43	
	営業利益率(%)	3.9%	4.5%		
その他	売上高	5,259	3,800	△ 27.7%	
	営業損益	△ 14	10	+ 24	
	営業利益率(%)	-0.3%	0.3%		
消去・配賦不能		営業損益	△ 486	△ 640	△ 154
合計		売上高	30,431	30,000	△ 1.4%
		営業利益	1,062	1,200	+ 138
		営業利益率(%)	3.5%	4.0%	

参考：14年度下期の為替レート前提 1ドル=105円、1ユーロ=135円

※ 予想値は、2014年10月30日現在（7月30日の前回予想から変更はありません）

### **III. 2015中期経営計画の進捗**

# 中期経営方針

## (1) 社会ソリューション事業への注力

### → 社会価値創造型企業への変革

- ICTによる社会インフラ高度化事業に経営資源を集中
- 社会課題の解決を成長機会と捉え、新たなビジネスモデルを確立

## (2) アジアへの注力、現地主導型ビジネスの推進

### → グローバルで戦える成長基盤を確立

- アジアを中心とした新興国、発展途上国に注力
- 現地ニーズに対する感度を高め、事業スピードをアップ

## (3) 安定的な財務基盤の構築

- ● コスト競争力の強化
- 営業利益1,500億円、FCF1,000億円を創出する収益構造の確立
- ハイブリッド・ファイナンスによる財務余力の確保



**営業利益率5%、海外売上比率25%の早期実現を目指す**

※ 予想値は、2013年4月26日現在



# 14年度上期の成果と課題

## 成果

- **新たな成長ドライバーの育成**
  - TOMS/SDN、ビッグデータ、クラウド、セーフティなどに注力
- **グローバル成長基盤の確立**
  - エネルギー事業の海外基盤確立、大型受注の獲得など
- **安定的な財務基盤の確立**
  - NECフィールドイングの完全子会社化完了
  - フリー・キャッシュ・フロー改善への取り組み（CCC活動）

## 課題

- **成長戦略の具体化と加速**
  - 次の100年に向けた『再成長シナリオ』の構築へ
- **収益性改善に向けた取り組み強化**
  - ロスコストのミニマム化
  - グローバル競争力のある企業への変革

CCC : Cash Conversion Cycle

# SDNの取り組み

## テレコムキャリア向け

- 本格的な市場の立ち上がりに向けて、SDN導入に積極的なグローバルキャリア（約20案件）への提案・実証実験を拡大中
  - NTTドコモとのマルチベンダ実証において、他ベンダとの連携動作確認を実施
- テレフォニカ社とのvCPEプロジェクトは進行中
  - SDN & OpenFlow World Congress 2014において共同デモを展示
- ネットクラッカー社のTOMS技術の強みとの融合

## 企業・官公庁およびデータセンター向け

- 需要の高まりを捉え、着実に実績を拡大（約200システム）
  - 西日本高速道路（NEXCO西日本）、名古屋市立大学病院などで新たに採用

**テレコムキャリア向け商用化への取り組み加速**

# パブリック／エンタープライズの取り組み

## 注力する社会インフラ領域で実証実験、事例を拡大

### ● ビッグデータ関連

- 中国電力 島根原子力発電所へ「大規模プラント故障予兆監視システム」を納入
- 上水道管の漏水を早期発見する「漏水監視サービス」発売

### ● クラウド関連

- クラウド基盤サービス「NEC Cloud IaaS」の提供開始
  - － IHI運搬機械の機械式立体駐車場向け遠隔監視保守システム基盤
  - － 住友生命グループ会社向け共通IT基盤
  - － 明治フレッシュネットワークの業務システム基盤



NEC神奈川データセンター

### ● セーフティ関連

- サイバー攻撃対策の導入・運用支援「サイバーセキュリティ・ファクトリー」本格稼働
- 米国国立標準技術研究所の顔認証/指紋認証技術のベンチマークテストで第1位評価

# ICTによる社会インフラ高度化事業に集中

# エネルギーの取り組み

## スマートエネルギー事業の海外基盤確立

- 「NEC Energy Solutions, Inc.」を設立、事業開始  
(本社:米国マサチューセッツ州100%子会社)
  - イタリア最大の配電事業者ENEL Distribuzione社に次世代スマートグリッドに向けたリチウムイオン蓄電システムを納入
  - イギリスの大手電力会社Northern Powergrid社に次世代スマートグリッドに向けたリチウムイオン蓄電システムを納入
  - インドで携帯電話基地局へのエネルギー管理システム導入に向けた実証実験を開始



グローバル市場展開に向けて取り組みを加速

# グローバル事業拡大への取り組み①

## テレコムキャリア領域

### ● 海底ケーブルで大型案件を獲得

- 日米を結ぶ太平洋横断大型光海底ケーブル「FASTER」を受注
- 東南アジアと米国を結ぶ光海底ケーブル「SEA-US」の建設請負契約を締結
- タイと香港を結ぶ光海底ケーブルシステムを受注



### ● ザンビアのザムテル社からマイクロ無線バックボーン／アクセスを受注



# グローバル事業拡大への取り組み②

## 新たな領域への参画

### ● スマートシティ関連

- スペイン サンタンデル市の  
ゴミ収集管理サービスの高度化事業に参画



### ● 交通・物流関連

- バングラデシュ ダッカ市の  
交通料金システム統合に向けたプロジェクトを開始

### ● マネージドサービス関連

- オーストラリア国防省のデータセンター  
統合プロジェクトにおける運用管理業務を受注
- 南オーストラリアにおける政府向け  
ネットワークマネージドサービス受注

### ● 漏水監視サービス関連

- 北米で実証実験の実施決定

### ● 宇宙関連

- メキシコ宇宙庁と  
衛星開発で協力



### ● 顔認証関連

- アルゼンチン ティグレ市が  
街中監視システムに  
顔認証技術を導入



# 企業文化の再構築

## 社会ソリューション事業ブランドメッセージの策定

## One to Manyのプロセス確立

# Orchestrating a brighter world

世界の想いを、未来へつなげる。

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。  
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ  
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、  
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、  
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、  
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。





**2014年度計画は  
2015中期経営計画の実現に向けた  
重要なステップとして達成すべき目標**

**3年連続で年間計画を確実に達成して  
安定的な配当を継続**

※ 予想値は、2014年10月30日現在



# Orchestrating a brighter world

世界の想いを、未来へつなげる。

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。  
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ  
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、  
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、  
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、  
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。

Empowered by Innovation

**NEC**

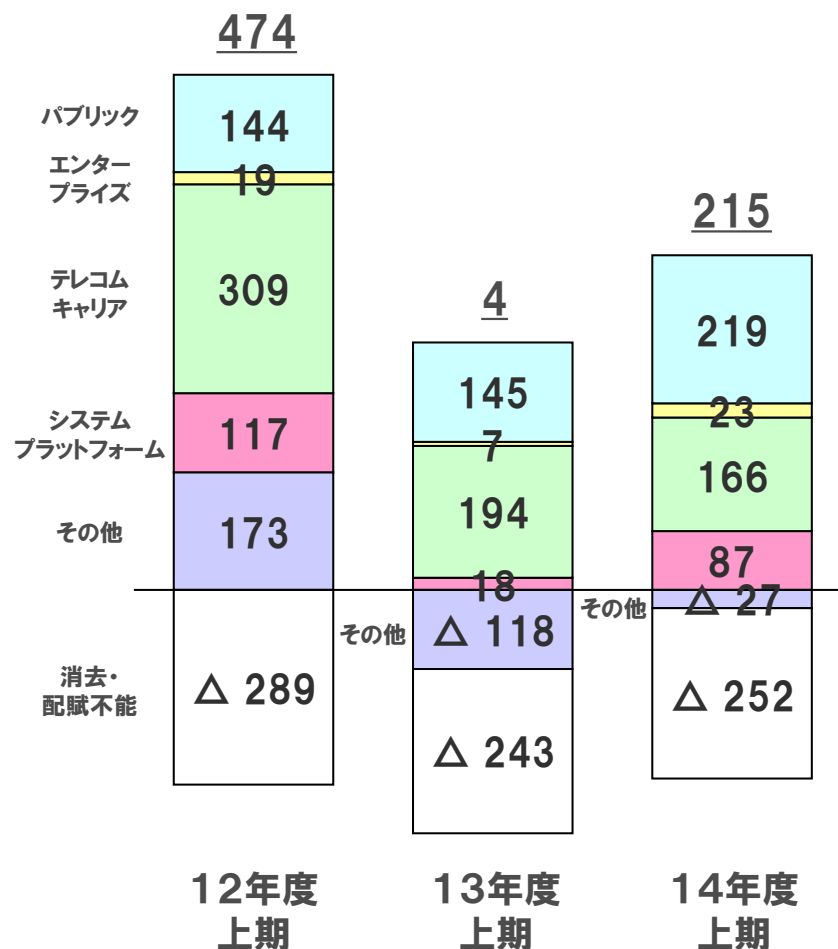
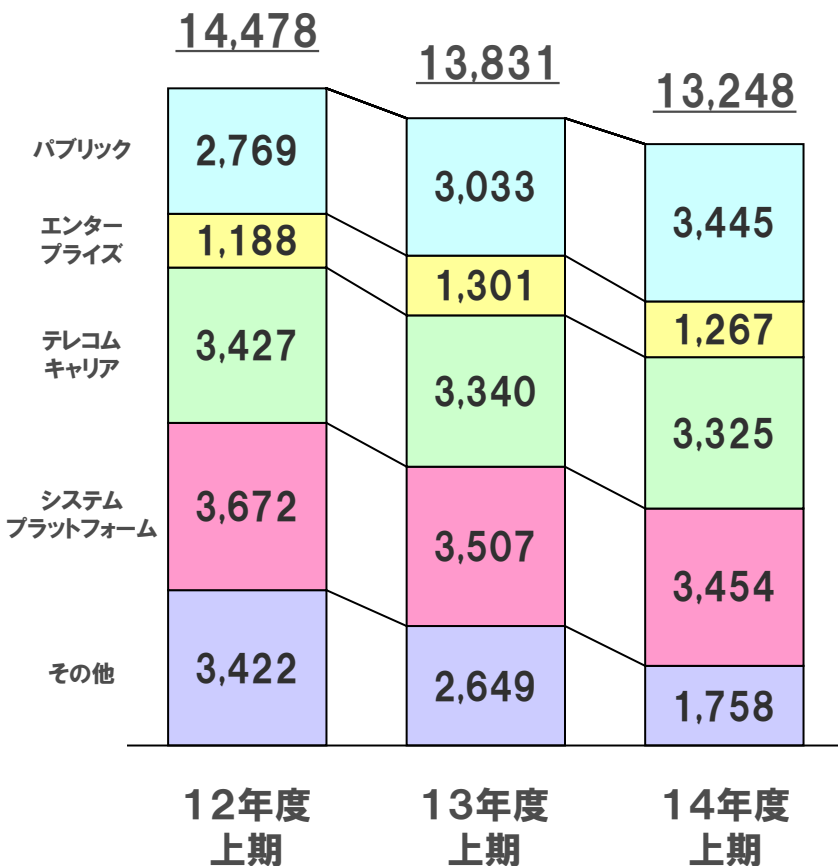
## **第2四半期累計期間 決算概要（補足）**

# セグメント別 上期実績 (3カ年推移)

(億円)

## 売上高

## 営業損益



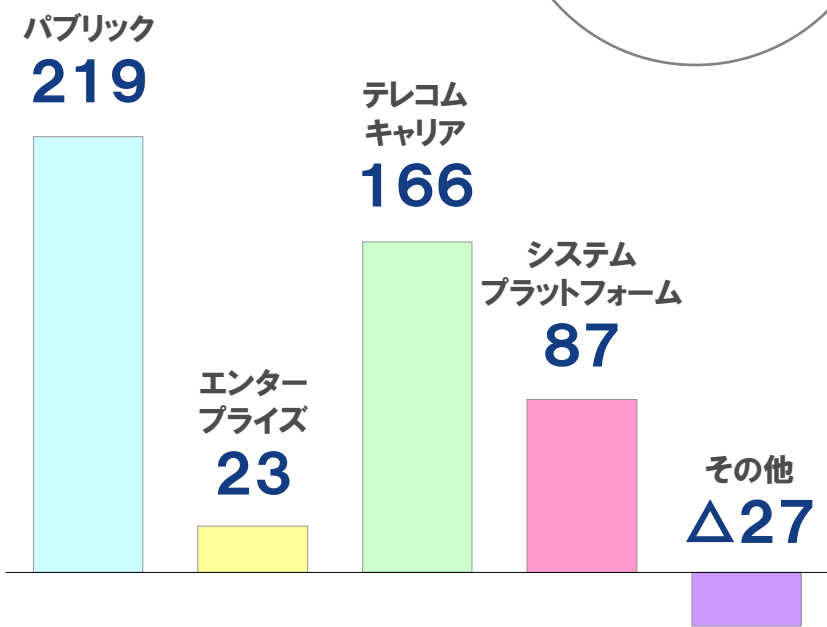
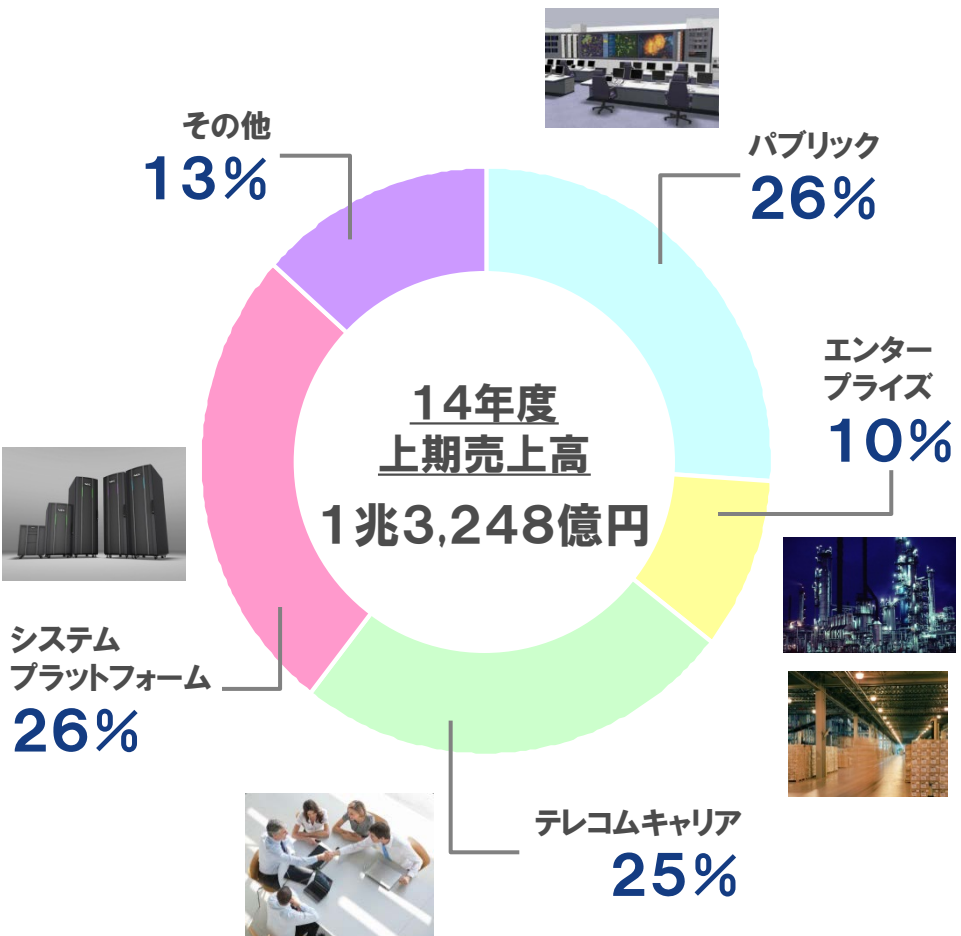
# セグメント別 上期実績

## 売上高

## 営業損益

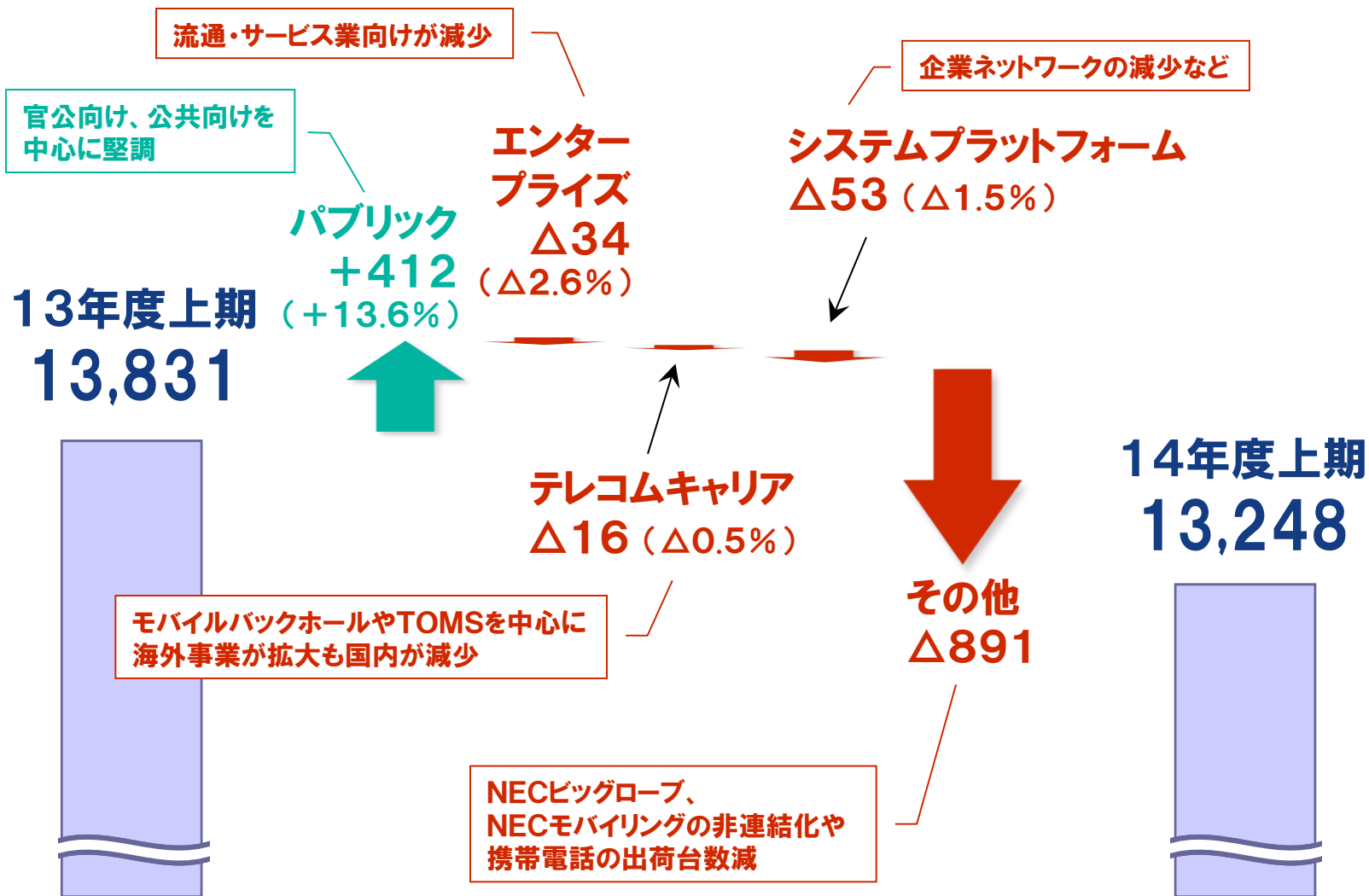
(億円)

**14年度  
上期営業利益  
215億円**



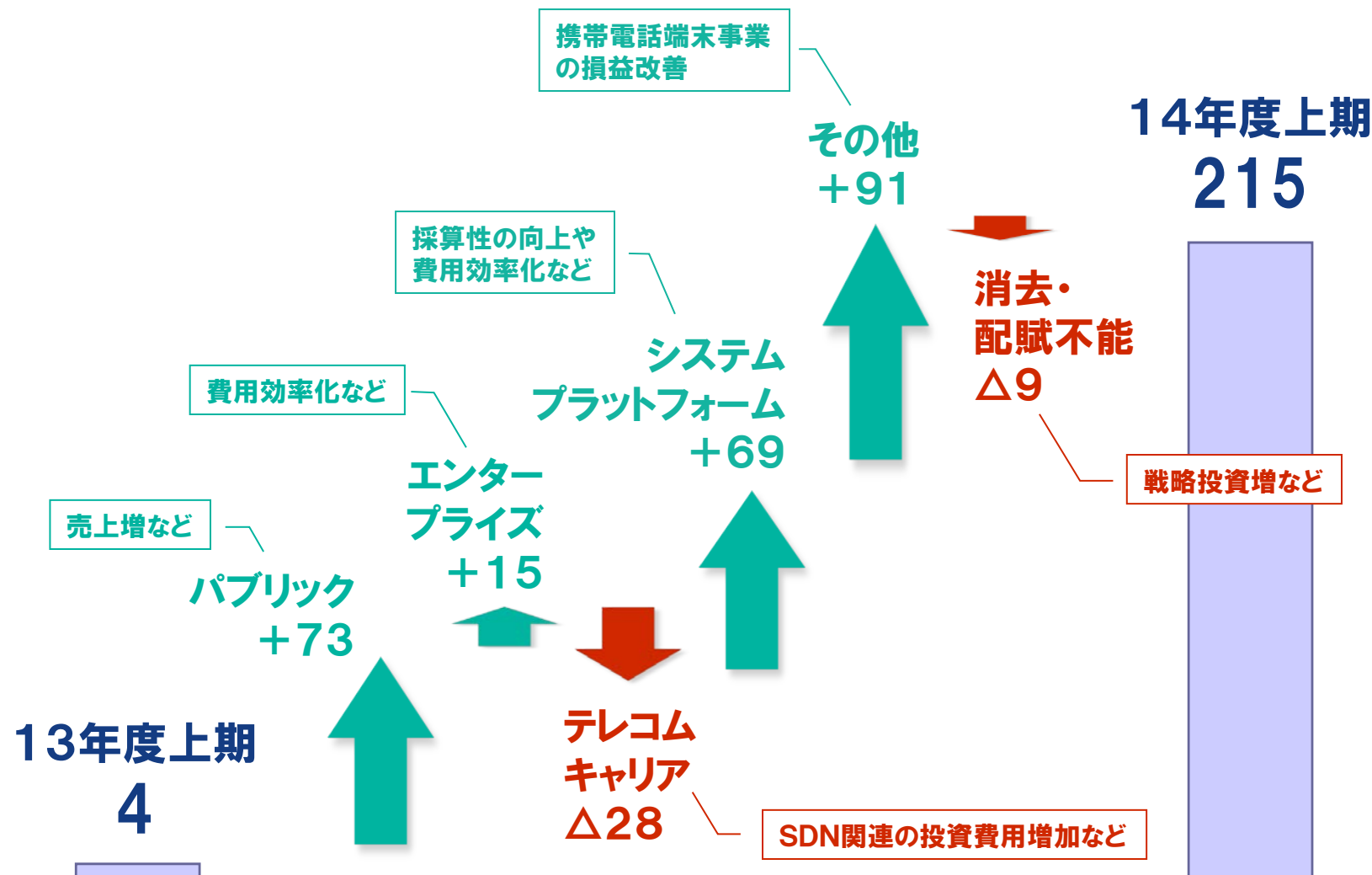
# 売上高増減（前年同期比）

（億円）



# 営業利益増減（前年同期比）

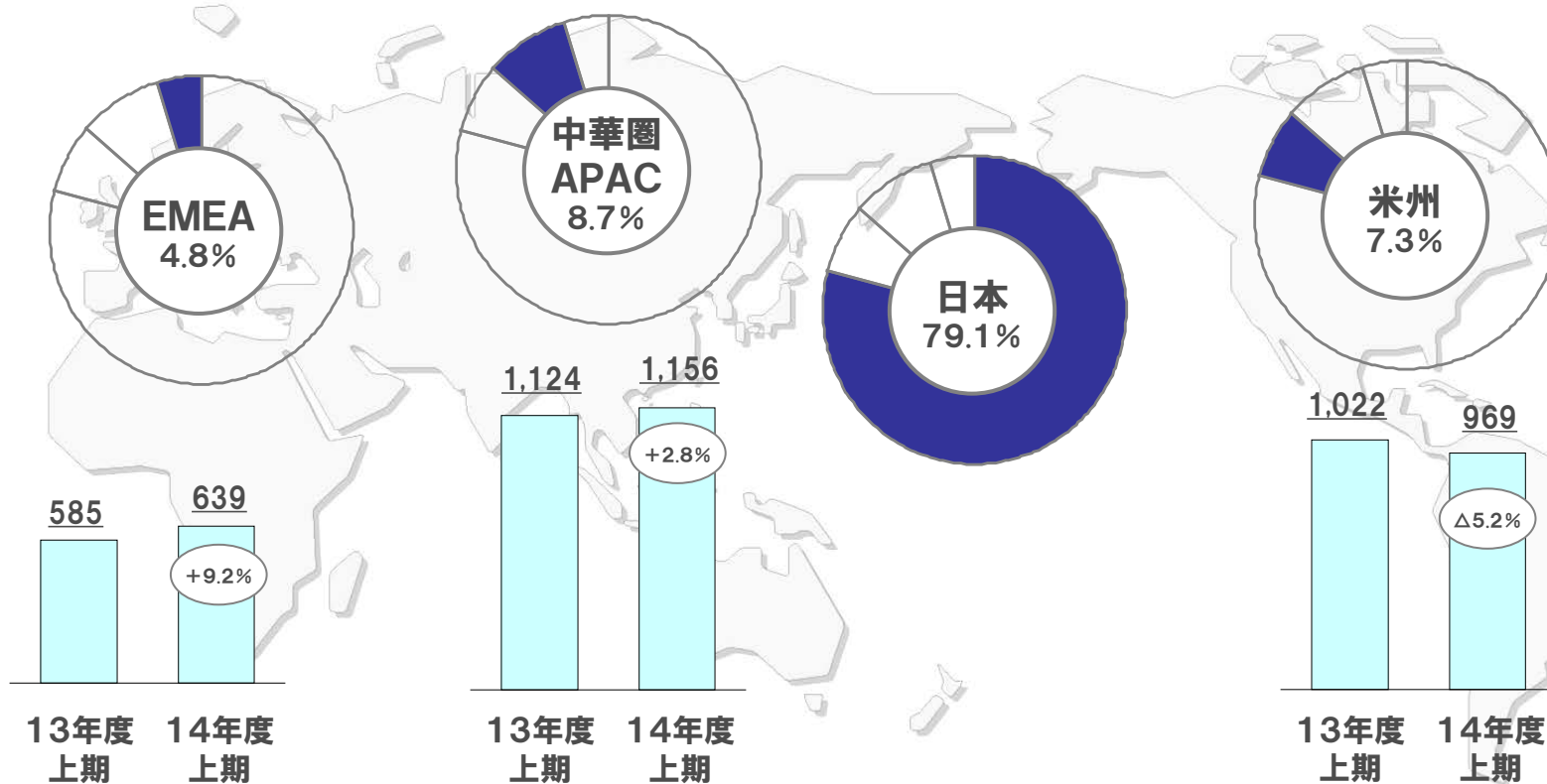
（億円）



# 海外売上高

(億円)

前年  
同期比



	上期 <4~9月>		
	13年度実績	14年度実績	前年同期比
海外売上高	2,731	2,764	+1.2%
売上高比率 (%)	19.7%	20.9%	

※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています



# 財政状態に関する経営指標

(単位:億円)

	14/3末	14/9末	14/3末比	13/9末
総資産	25,053	24,477	△ 576	24,783
純資産	7,677	7,579	△ 98	7,878
有利子負債残高	5,752	5,706	△ 46	6,887
自己資本 自己資本比率(%)	6,959 27.8%	6,958 28.4%	△ 2 +0.6pt	6,841 27.6%
D/Eレシオ(倍)	0.83	0.82	+ 0.01pt	1.01
ネットD/Eレシオ(倍)	0.53	0.57	△ 0.04pt	0.75
現金及び現金同等物の 期末残高	2,066	1,760	△ 306	1,740

## 《参考》貸借対照表の状況（14/9末）

総資産 2兆4,477億円（前年度末比  $\Delta 576$ 億円）

## 流動資産

1兆4,189億円

$\Delta 840$

売掛債権の回収

前年度末比  
（億円）

## 負債

1兆6,898億円

$\Delta 478$

支払手形及び買掛金が減少

## 固定資産

1兆288億円

+264

## 純資産

7,579億円

$\Delta 98$

退職給付に関する会計基準等の適用  
などによる利益剰余金の減少

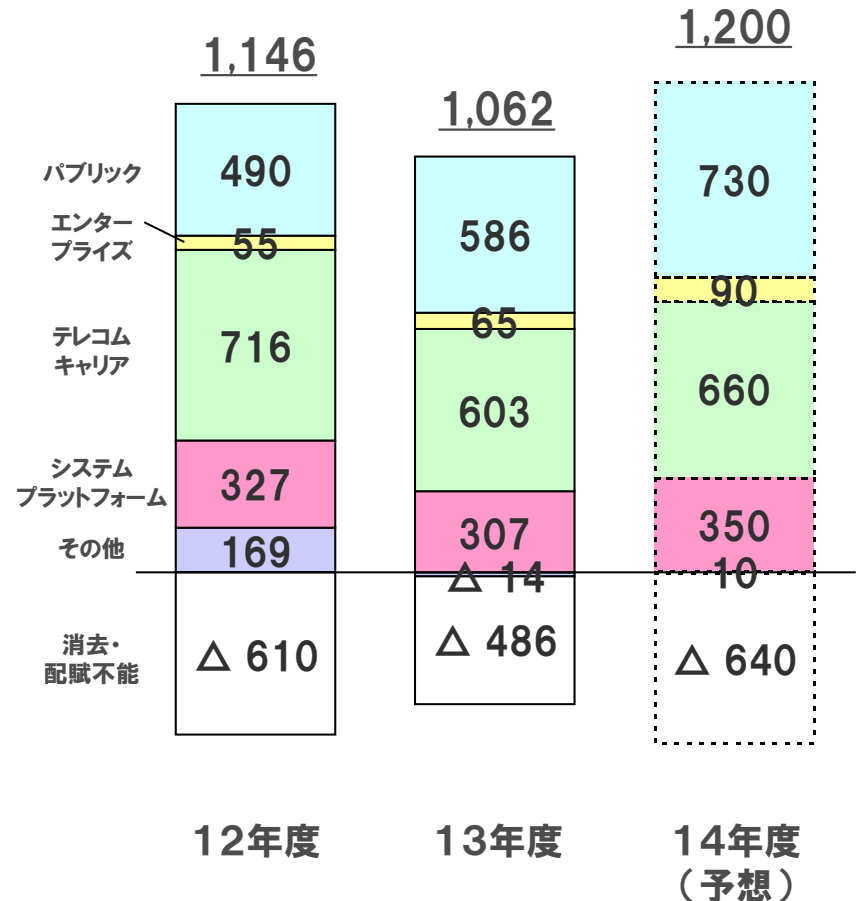
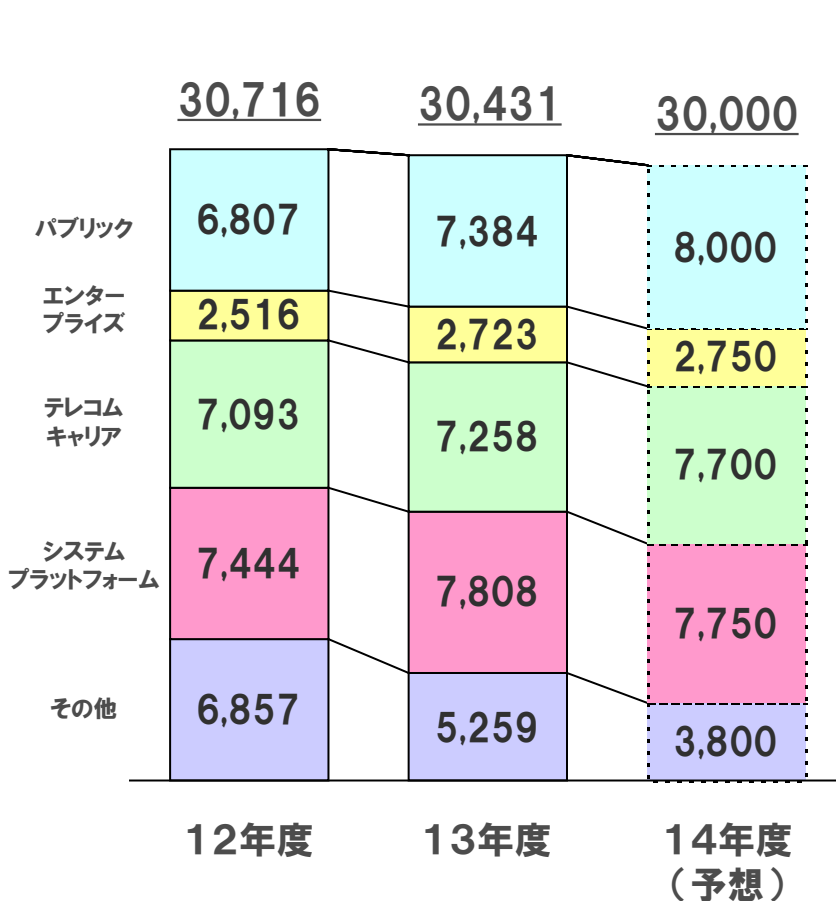
# 業績予想（補足）

# セグメント別 業績予想 (3カ年推移)

(億円)

## 売上高

## 営業損益



※ 予想値は、2014年10月30日現在

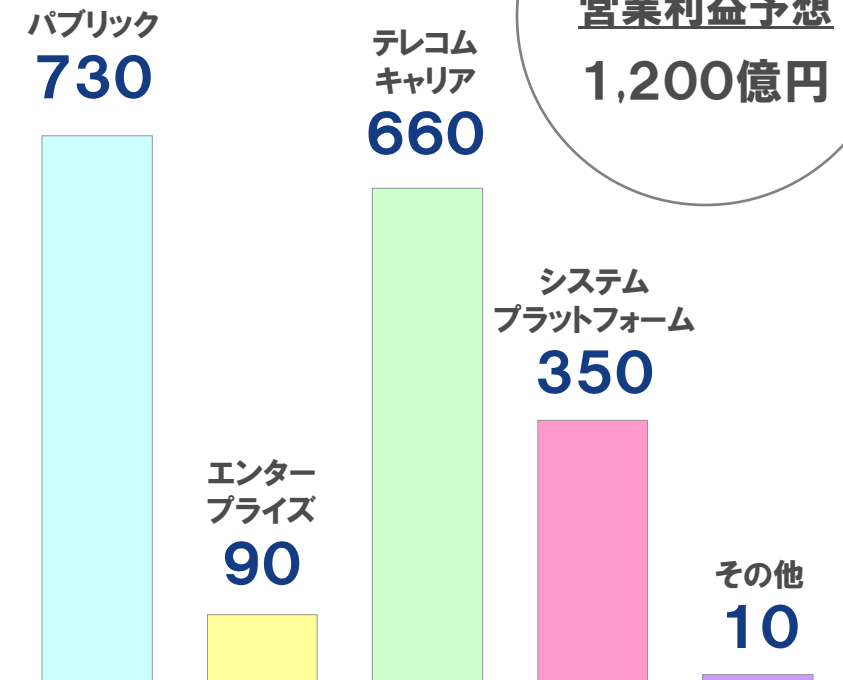
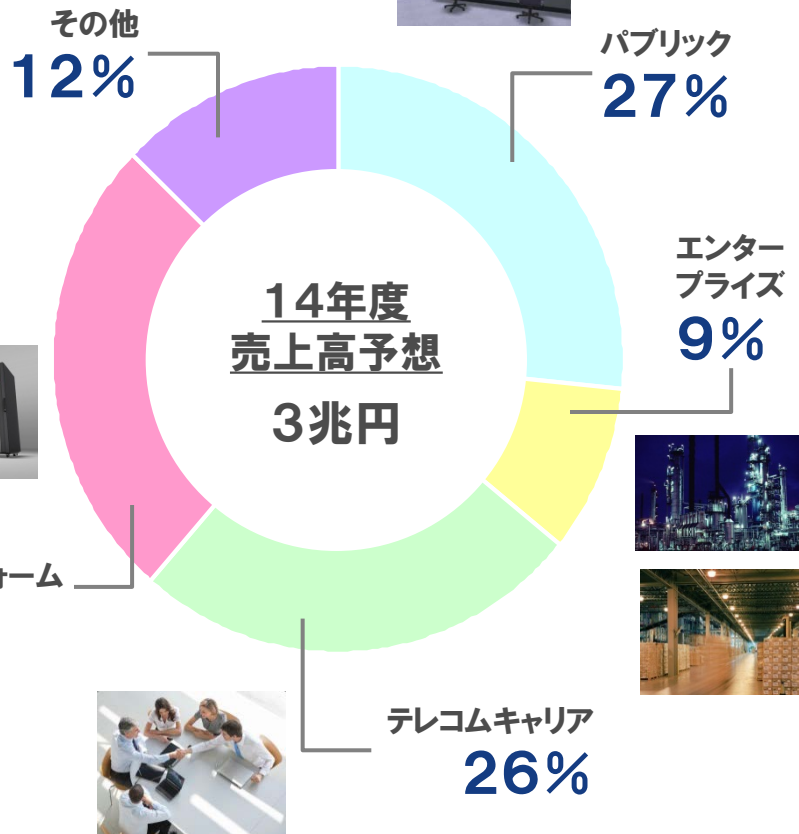
# セグメント別 業績予想

## 売上高

## 営業利益

(億円)

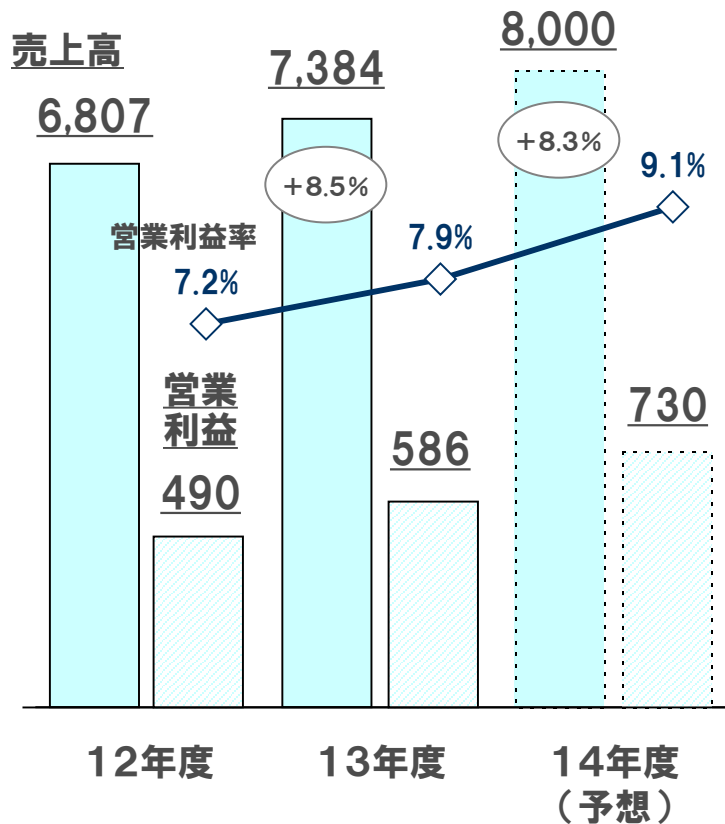
**14年度  
営業利益予想  
1,200億円**



※ 予想値は、2014年10月30日現在

(億円)

前年度比



## 売上高 8,000億円 (+8.3%)

△ 消防無線、マイナンバー制度など  
官公向け、公共向けを中心に  
堅調な推移を見込む

## 営業利益 730億円 (+144億円)

△ 売上増、原価低減、不採算案件の減など  
により増益を見込む

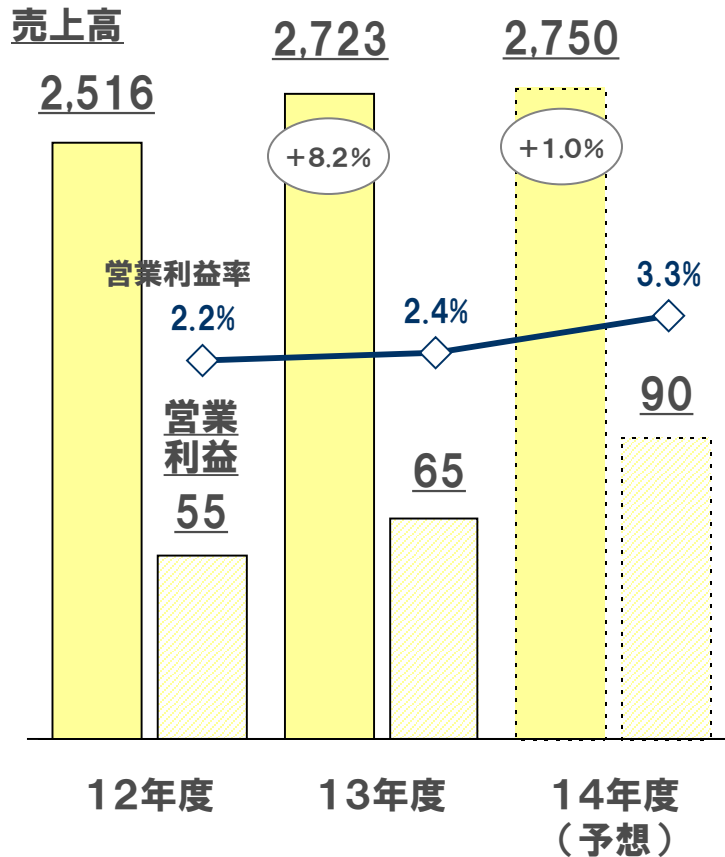


※ 予想値は、2014年10月30日現在、カッコ内の%は前年度比

# エンタープライズ

(億円)

前年度比

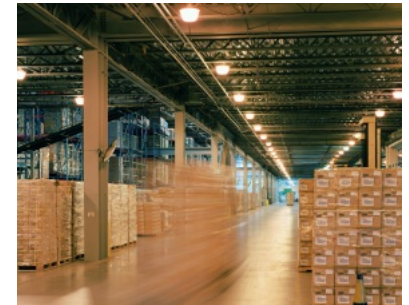


**売上高 2,750億円 (+1.0%)**

△ 流通・サービス業向けの増加を見込む

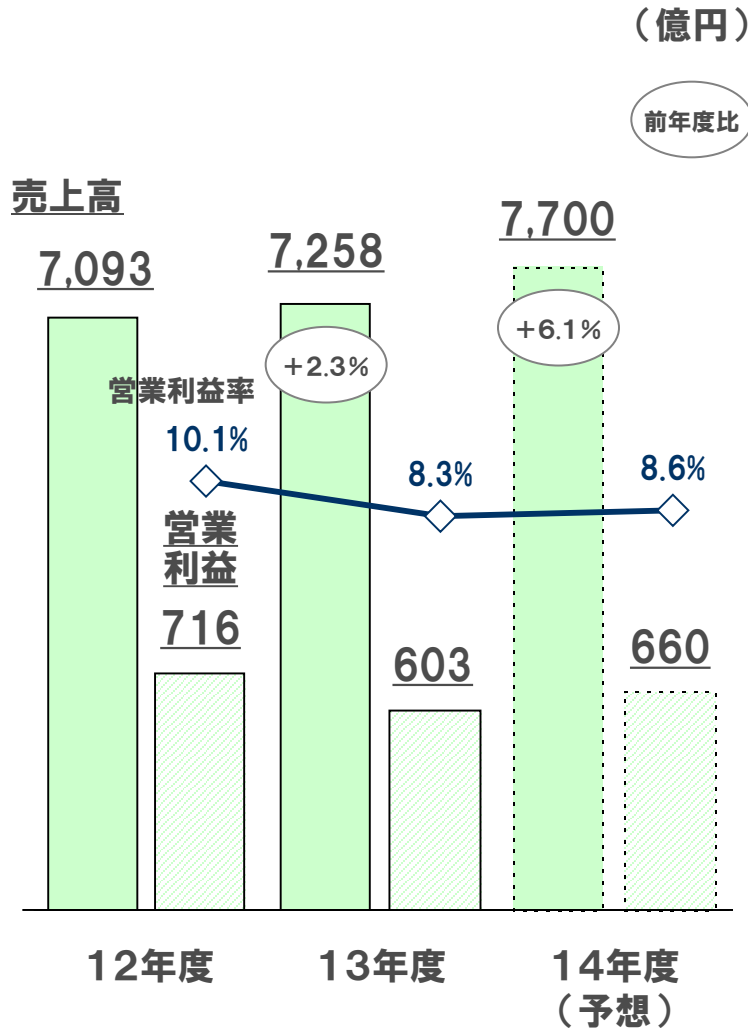
**営業利益 90億円 (+25億円)**

△ 売上増に加え、費用効率化などにより増益を見込む



※ 予想値は、2014年10月30日現在、カッコ内の%は前年度比

# テレコムキャリア



## 売上高 7,700億円 (+6.1%)

- △ 国内は横ばいを見込む
- △ 海外はTOMS/SDNなどの注力領域とモバイルバックホールを中心に増収を見込む

## 営業利益 660億円 (+57億円)

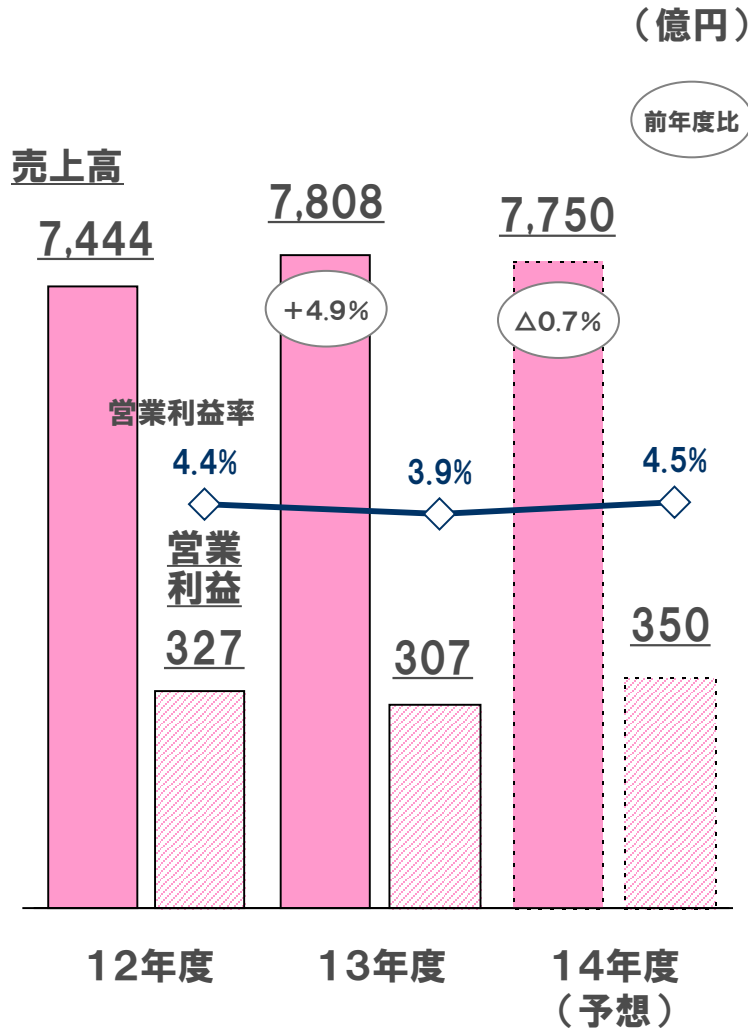
- △ 海外を中心とした売上増により増益を見込む



※ 予想値は、2014年10月30日現在、カッコ内の%は前年度比



# システムプラットフォーム



**売上高 7,750億円 (Δ0.7%)**

▽ サーバやソフトウェアなどのIT需要は継続するも、ビジネスPCの減少により減収を見込む

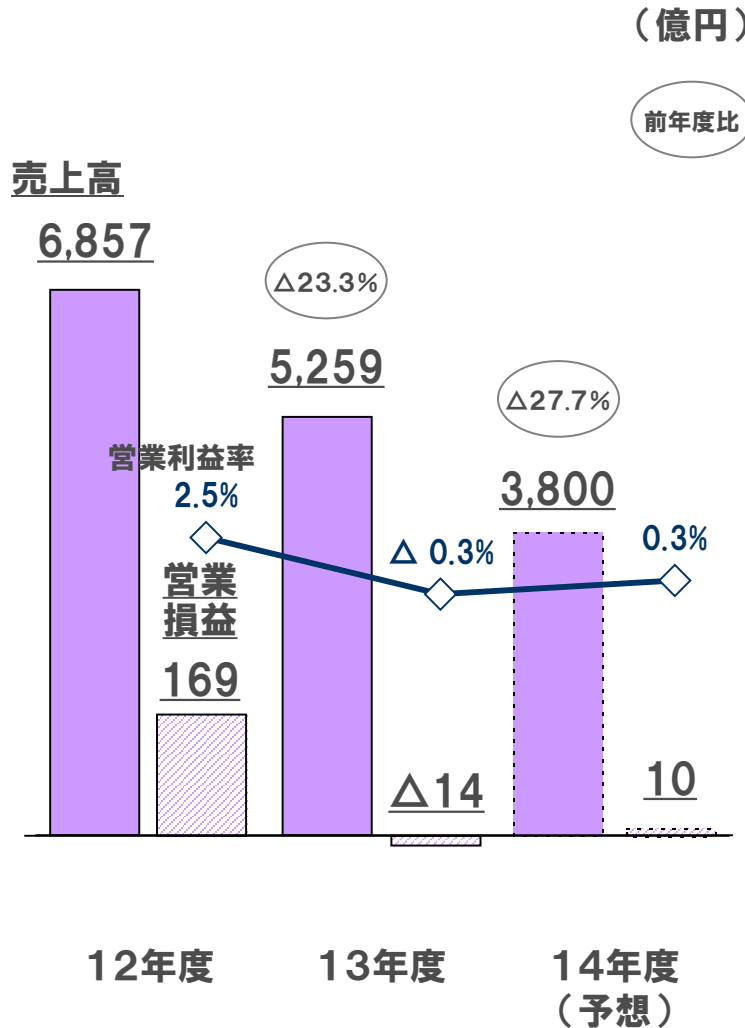
**営業利益 350億円 (+43億円)**

△ NECフィールドディングの統合効果やサーバやソフトウェアなどの売上増により増益を見込む



※ 予想値は、2014年10月30日現在、カッコ内の%は前年度比

# その他



**売上高 3,800億円 (△27.7%)**

▽ NECビッグロープの株式売却に伴う非連結化などにより減収を見込む

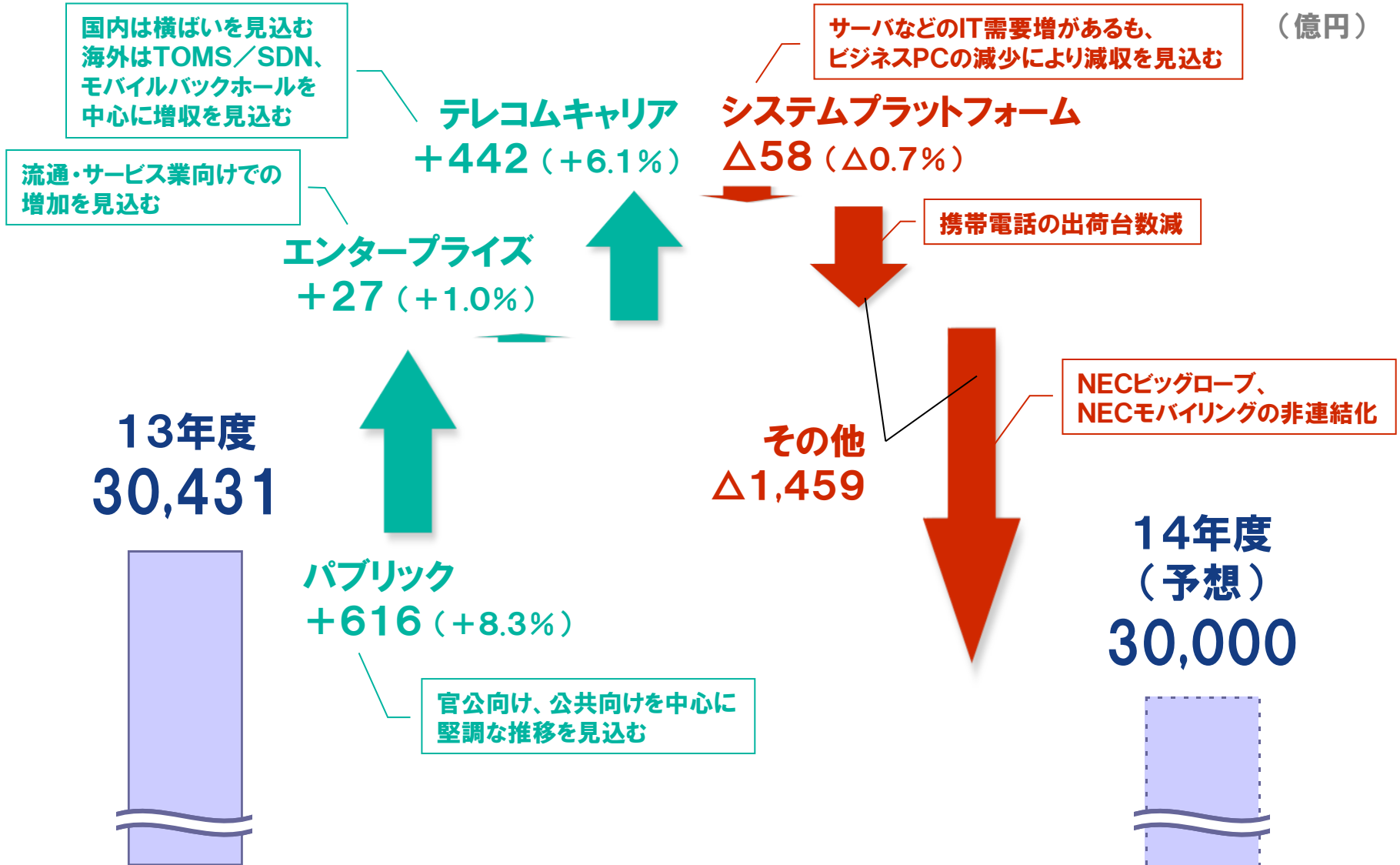
**営業損益 10億円 (+24億円)**

△ 事業の非連結化の影響があるものの、携帯電話端末事業やエネルギー事業の改善などにより増益を見込む

※ 予想値は、2014年10月30日現在、カッコ内の%は前年度比

# 売上高増減（前年度比）

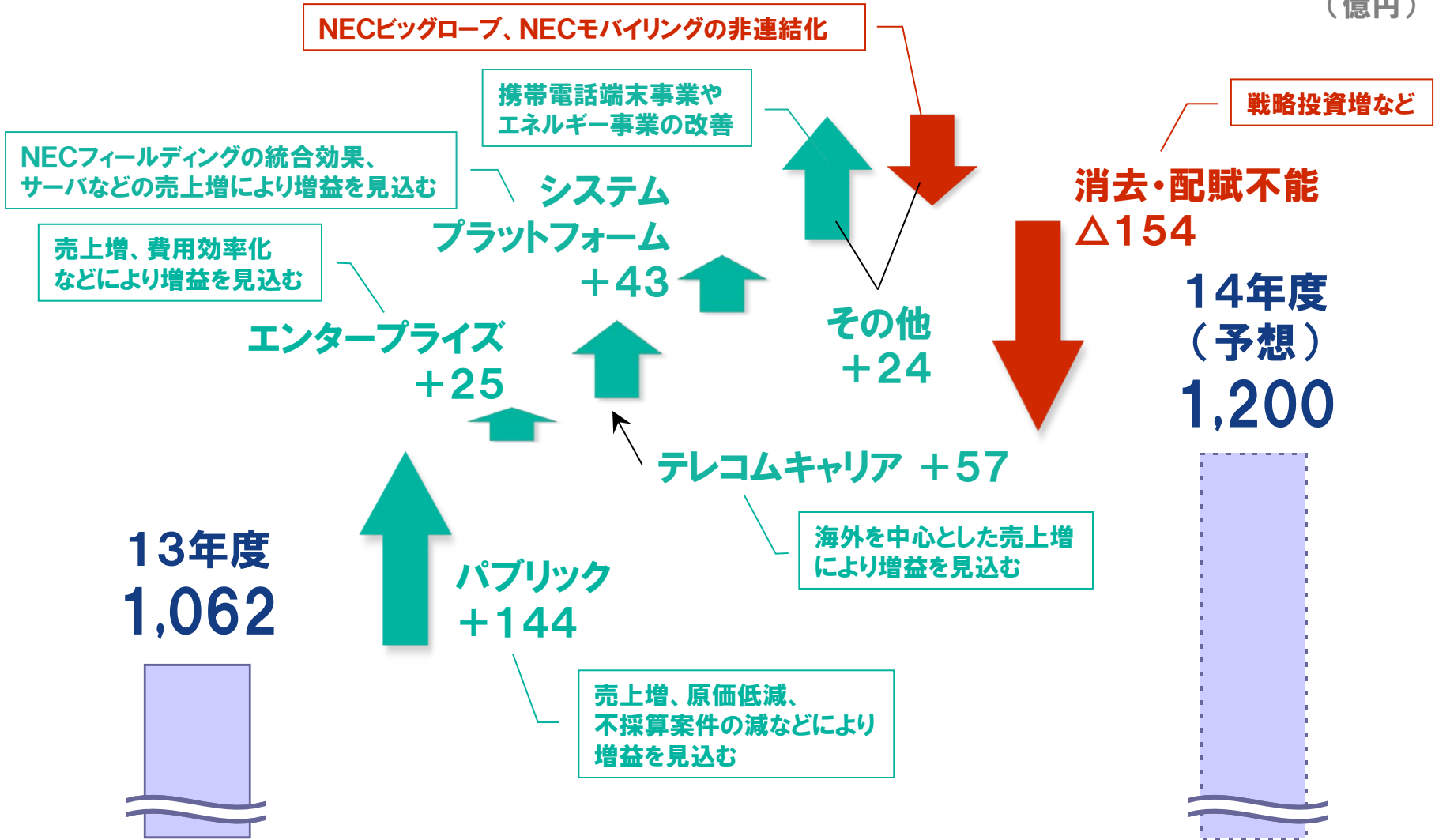
（億円）



※ 予想値は、2014年10月30日現在

# 営業利益増減（前年度比）

（億円）



※ 予想値は、2014年10月30日現在

# 当期純利益増減（前年度比）

（億円）

パブリック	+144
テレコムキャリア	+57
システムプラットフォーム	+43
エンタープライズ	+25
その他	+24
消去・配賦不能	△154

偶発損失引当金繰入額減、  
支払利息減など

営業外損益改善  
+70

関係会社株式売却益減など

その他  
△196

営業利益改善  
+138

13年度  
337

14年度  
（予想）  
350

※ 予想値は、2014年10月30日現在

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

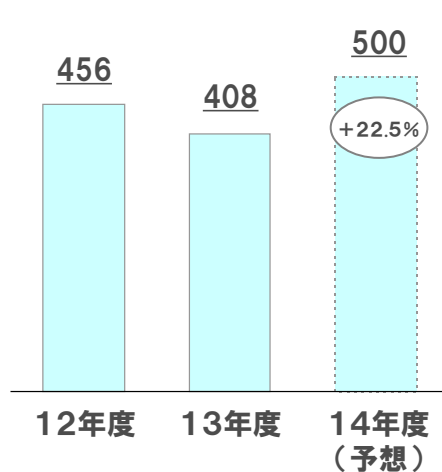
前年度比

	12年度 実績	13年度 実績	14年度 予想	前年度比
設備投資額	456	* 408	500	+ 22.5%
減価償却費	512	452	500	+ 10.7%
研究開発費	1,517	1,427	1,500	+ 5.1%
売上高比率	4.9%	4.7%	5.0%	

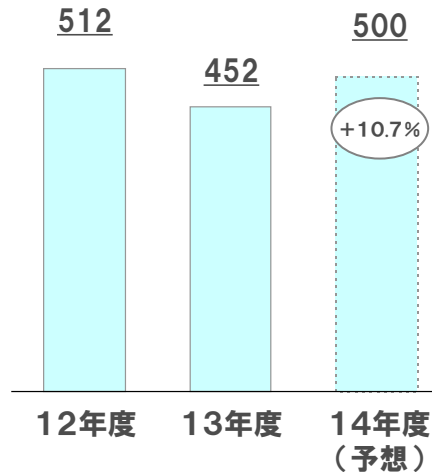
\* 信託受益権の取得は含まず



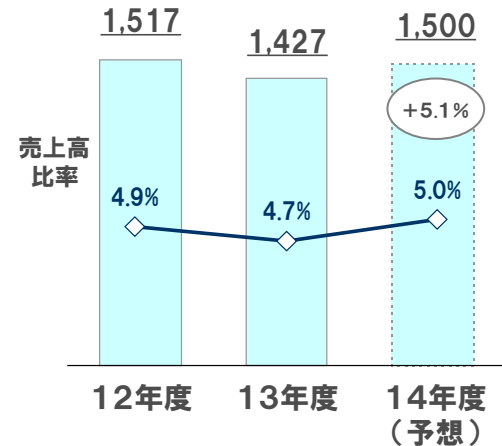
## 設備投資額



## 減価償却費



## 研究開発費



※ 予想値は、2014年10月30日現在

# 《参考》IFRSと日本基準との主要な差異

## 1Q決算時の開示内容

(注) 以下の数値は、当社の日本基準による業績予想数値について、国際財務報告基準（IFRS）を適用した場合の主要な差異（年金費用とのれん）についての現時点での検討に基づく試算値であり、日本基準とIFRSとの差異は以下に限るものではありません。また、以下の数値は会計監査人による監査を受けたものではなく、今後状況の変化があった場合において更新の義務を負うものでもありません。

本試算値は、投資家の参考のために自主的に作成し提供するものであり、当社は現時点においてIFRSの採用を決定していません。法令等に基づく開示書類については、日本基準に基づき今後も開示をしていきます。

(単位:億円)

	2014年度 通期		
	年金 未認識債務 償却額	のれん 償却額	計
営業利益	140	180	-
営業外損益	104		-
当期純利益	190	180	370

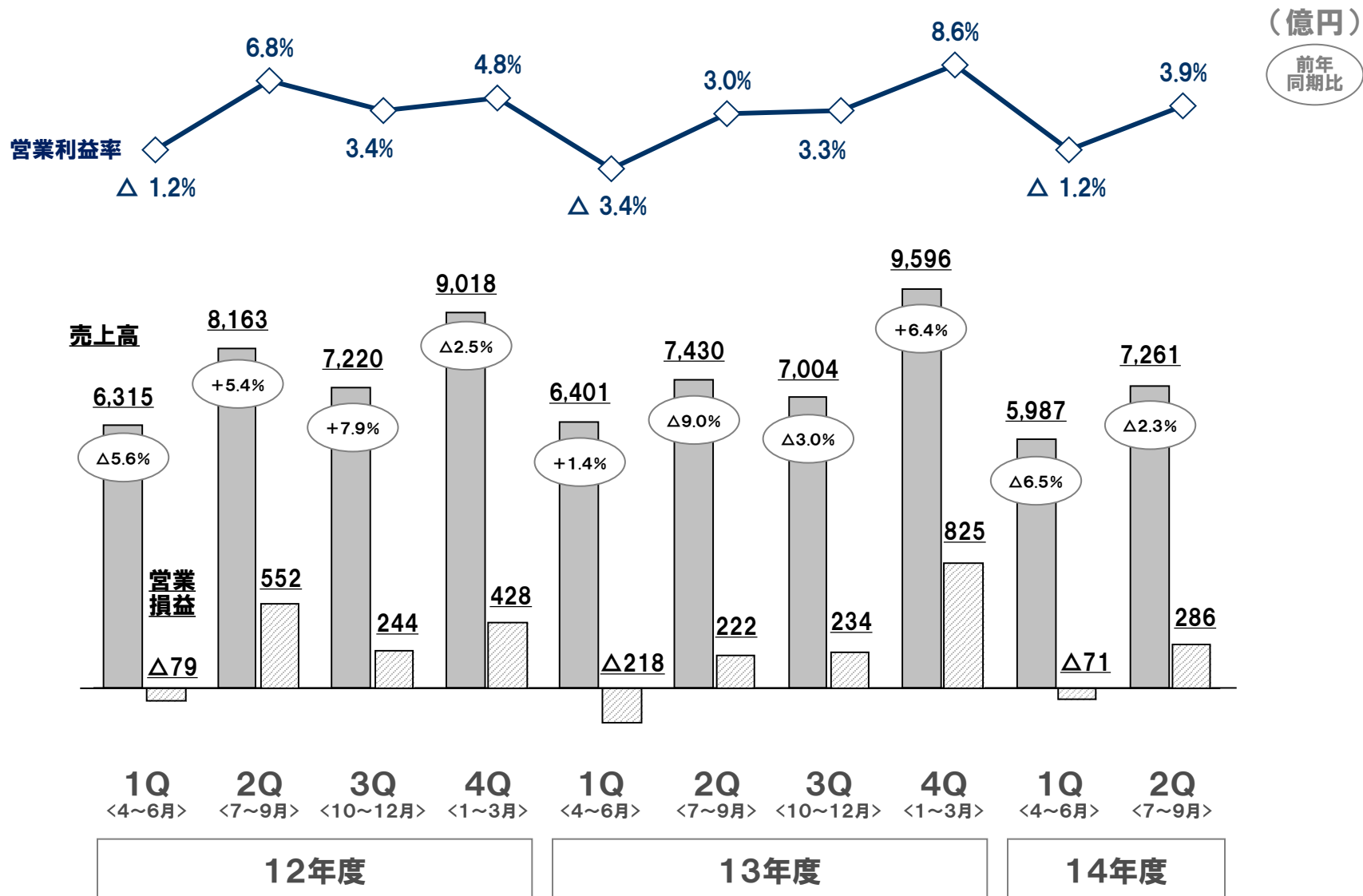
\* IFRSでは、年金費用の計算において、数理計算上の差異等の償却を行いません。  
また、のれんについても、定期償却を行いません。

※ 予想値は、2014年7月30日現在

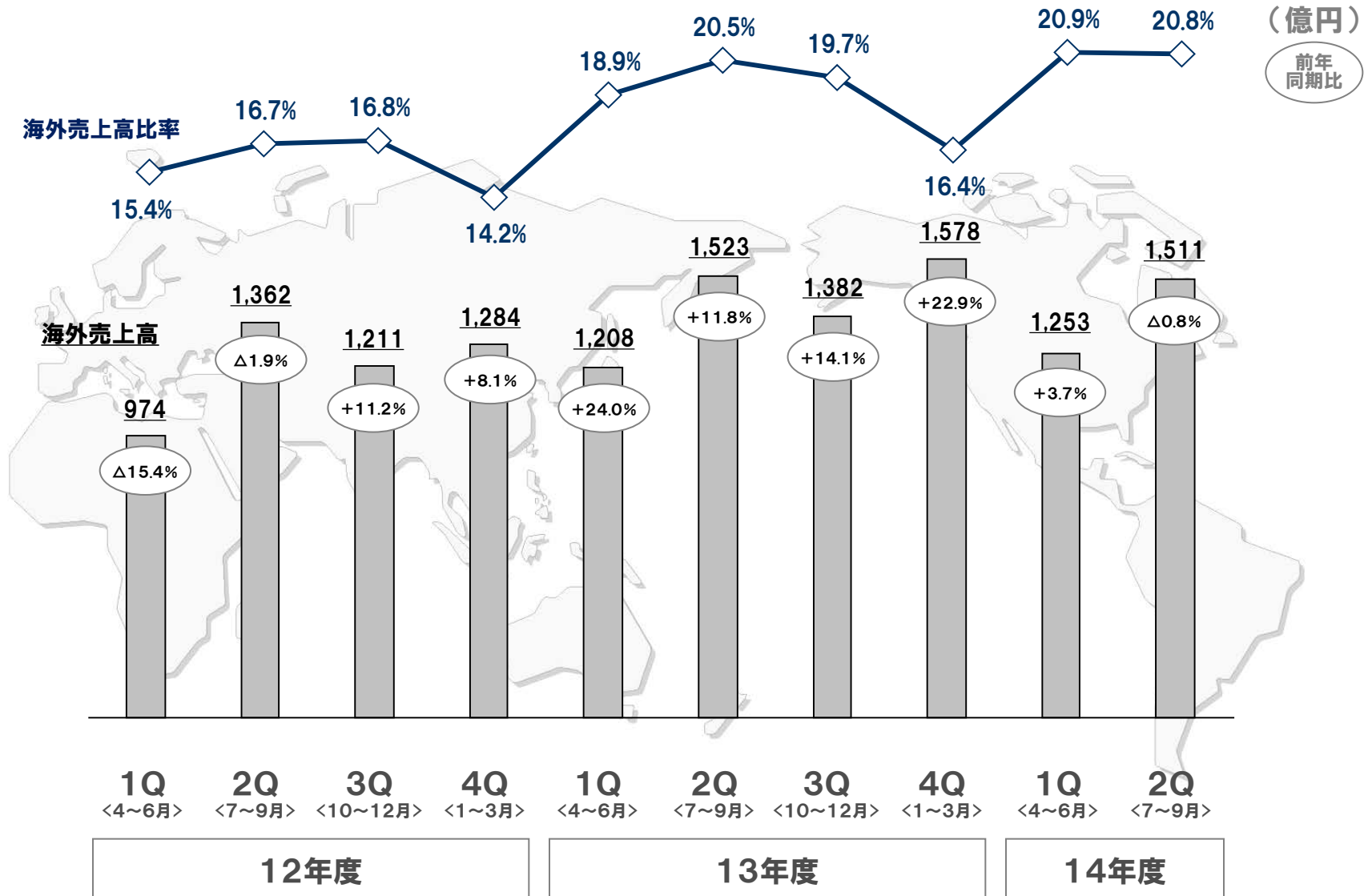
## 参考資料（業績データ）



# 全社売上高・営業損益推移



# 海外売上高推移

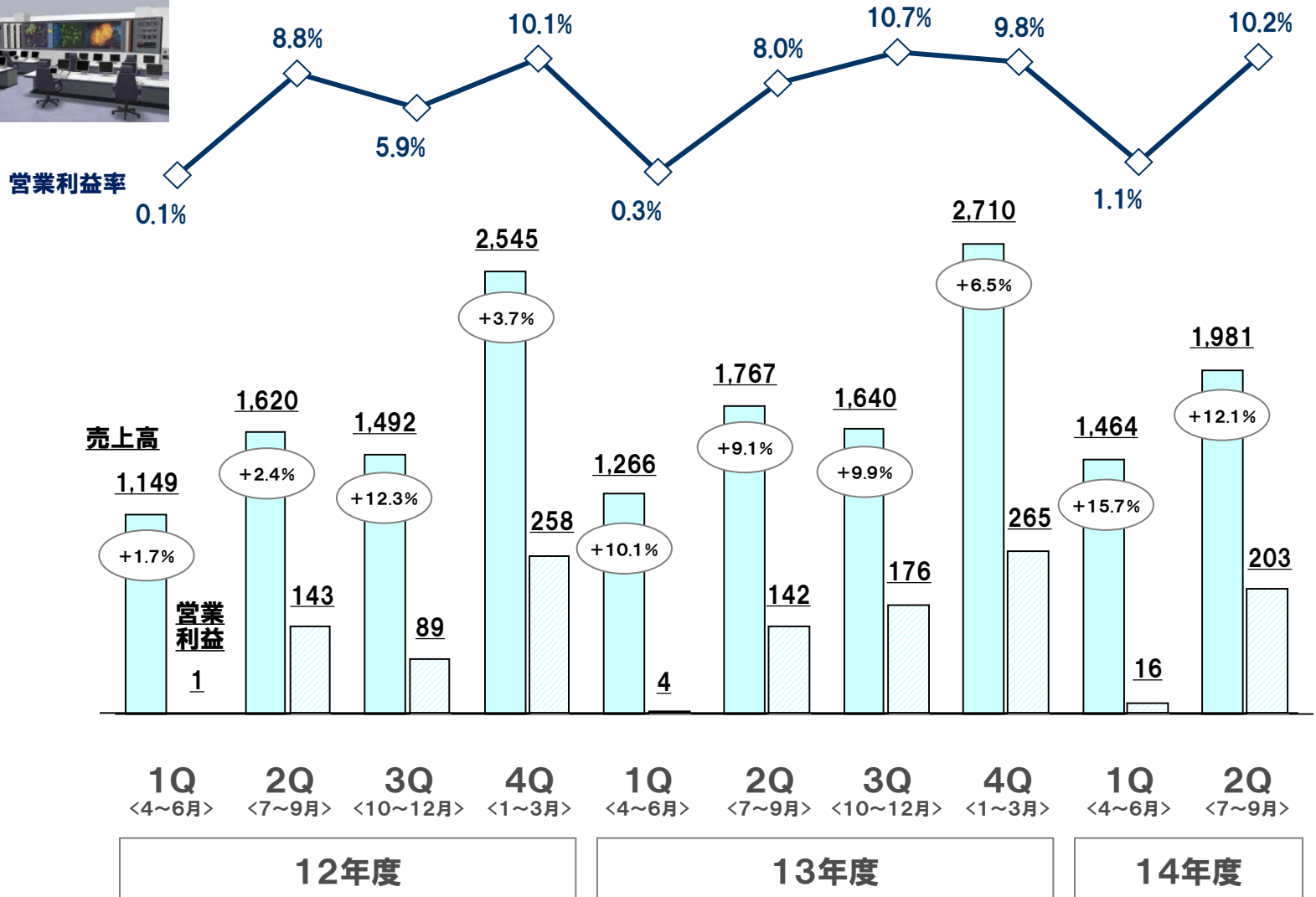


# パブリック 売上高・営業利益推移

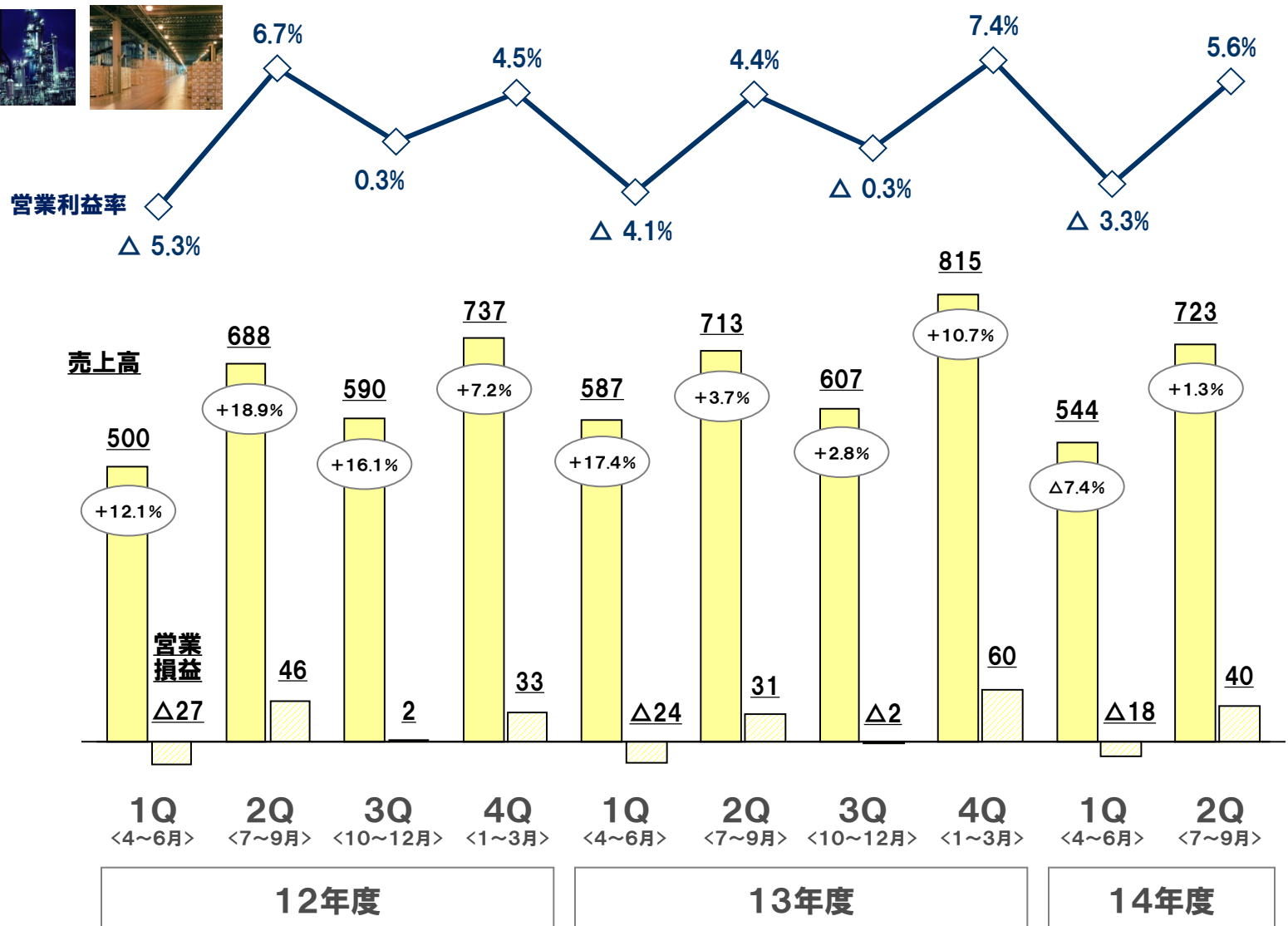


(億円)

前年  
同期比



# エンタープライズ 売上高・営業損益推移

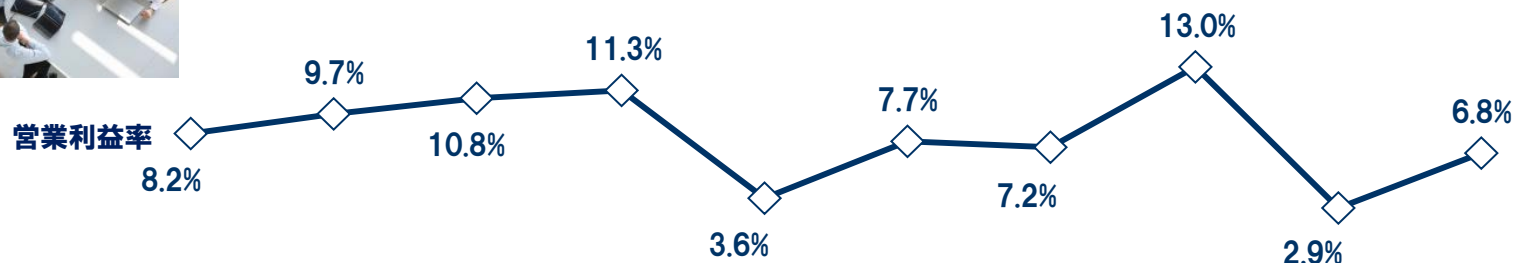


# テレコムキャリア 売上高・営業利益推移

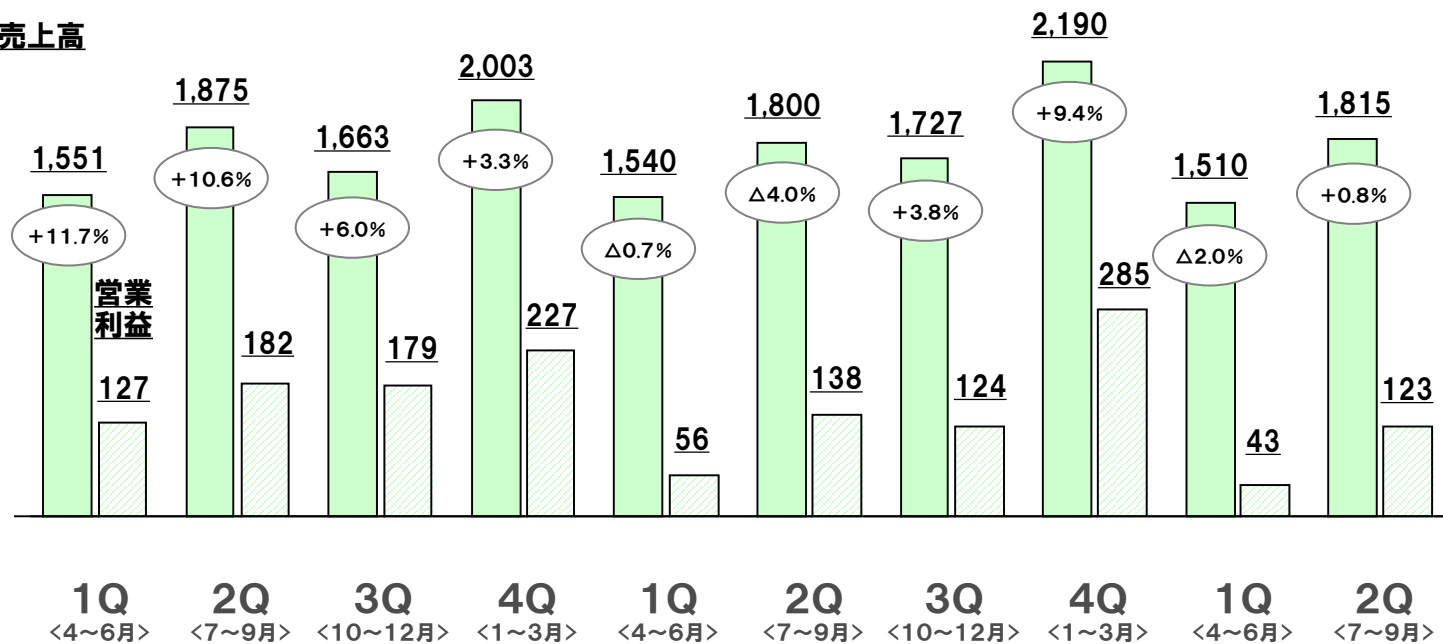


(億円)

前年  
同期比



売上高



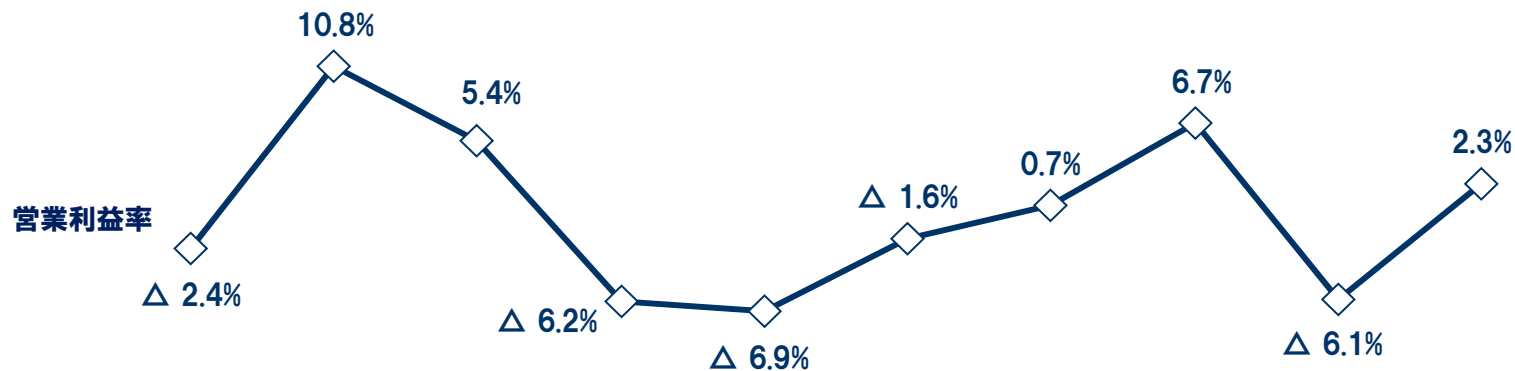
12年度                      13年度                      14年度



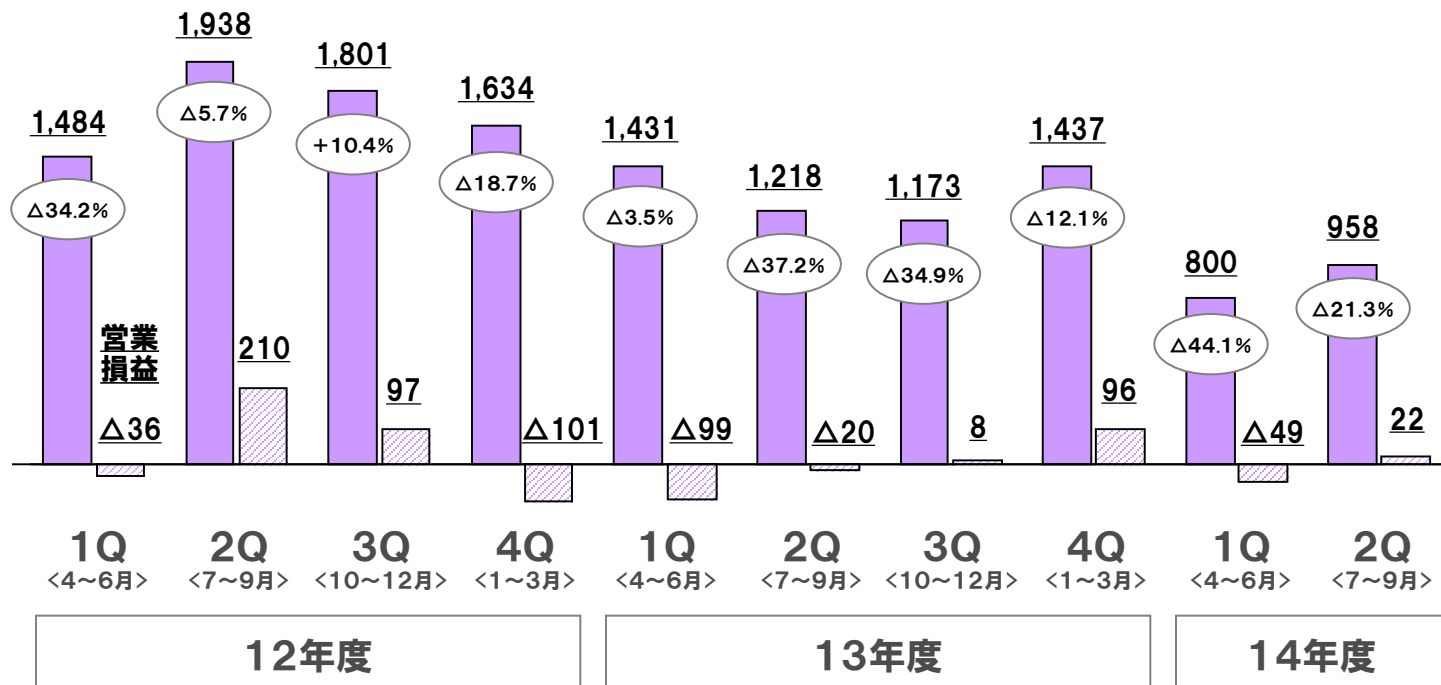
# その他 売上高・営業損益推移

(億円)

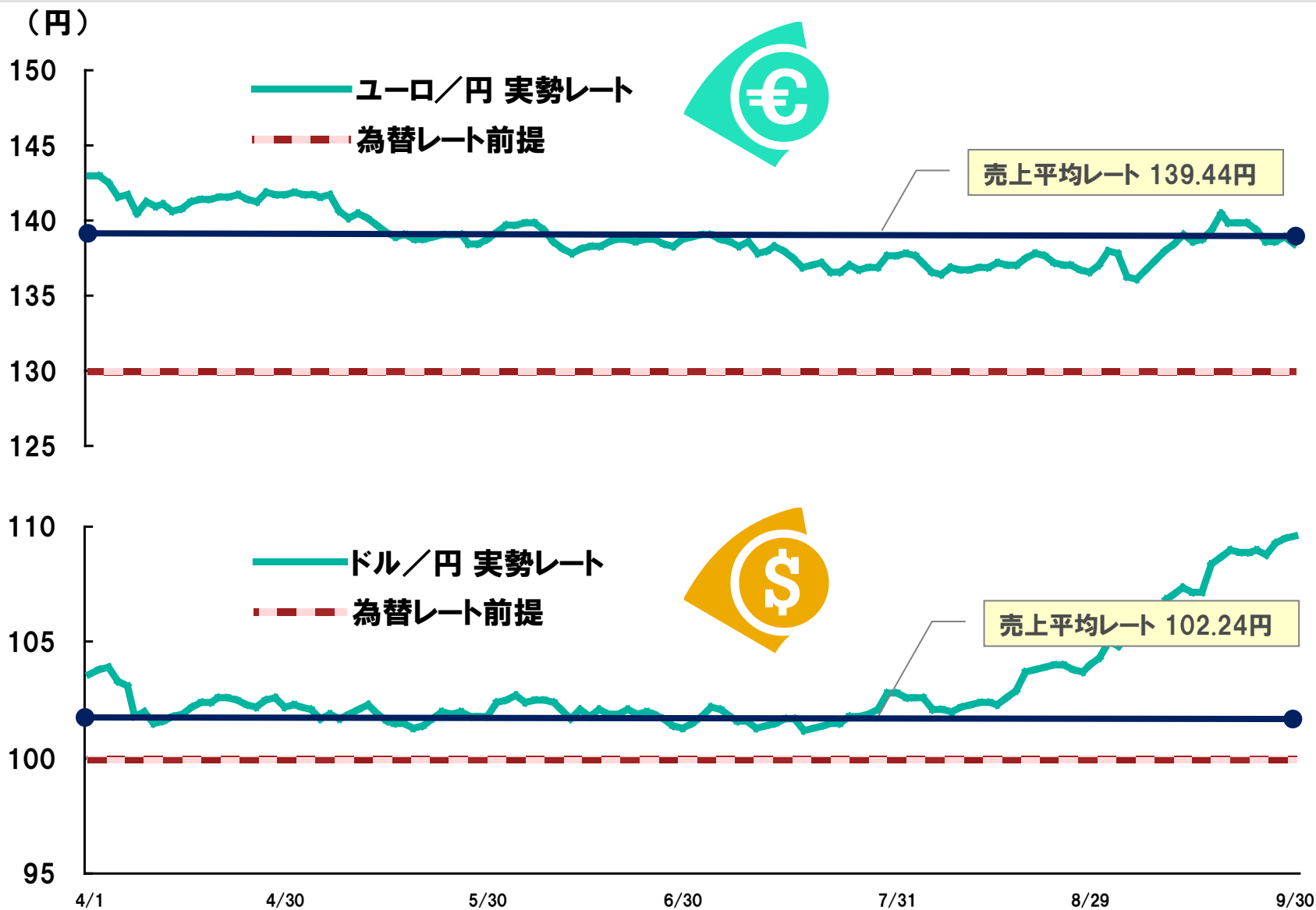
前年  
同期比



## 売上高

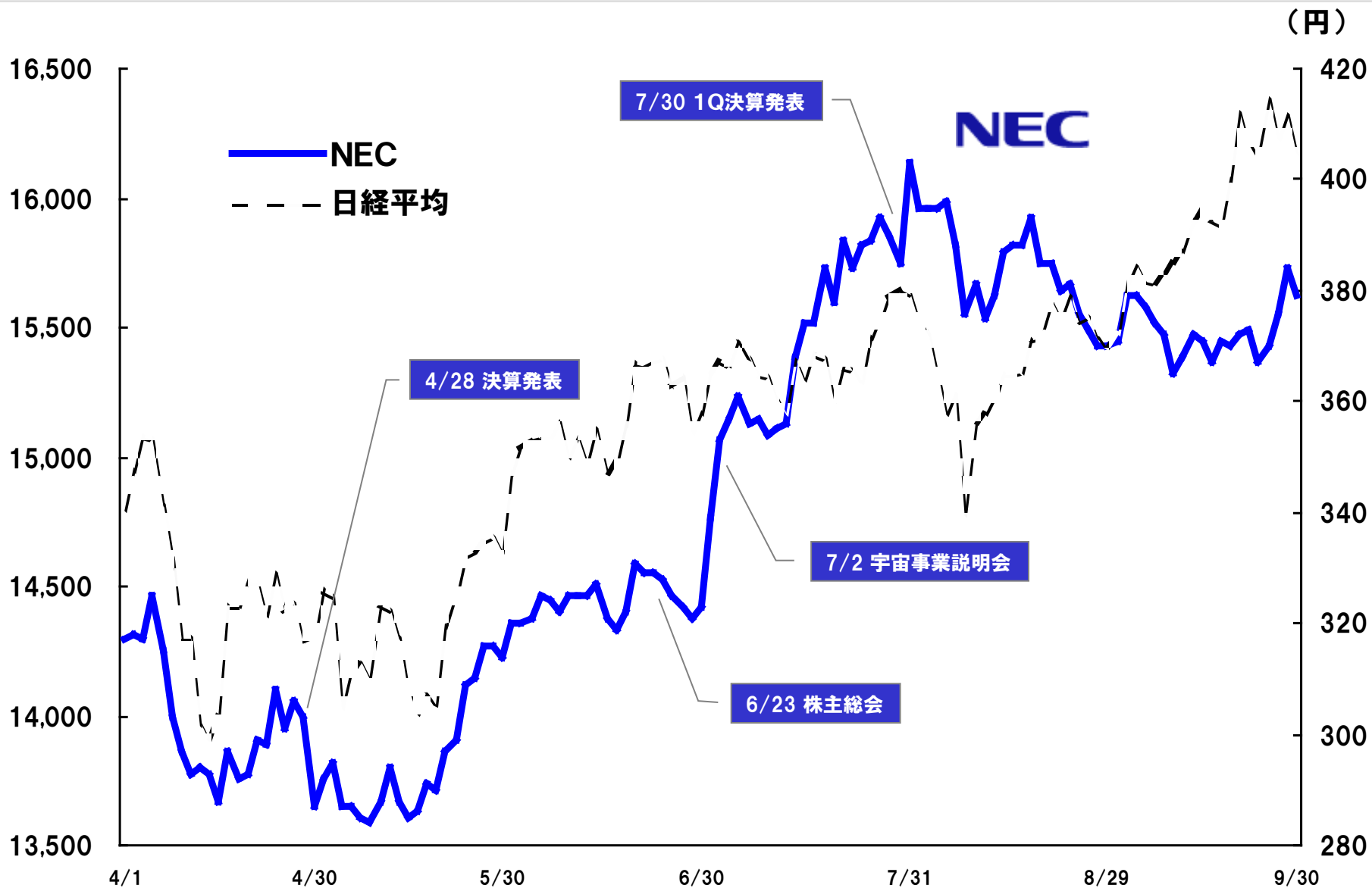


# 為替レートの推移





# 株価の推移



## ＜将来予想に関する注意＞

本資料には日本電気株式会社および連結子会社（以下NECと総称します。）の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが金融商品取引所や関東財務局長等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー（safe-harbor）ルールに準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いいたします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご了承ください。実際の結果に影響を与える要因には、(1) NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2) 市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3) 激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4) NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5) NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6) 市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7) 為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動、(8) NECが保有する上場株式の減損をもたらす株価下落など、株式市場における好ましくない状況や動向、(9) NECに対する規制当局による措置や法的手続による影響等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。

本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、有価証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、有価証券の募集または売出しを行うことはできません。

（注）

当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本基準」を採用しています。

年度表記について、2012年度は2013年3月期、2013年度は2014年3月期（以下同様）を表しています。